

本体調査の集計結果について

目 次

1 調査概要	1
2 回収結果	6
3 調査結果	6
3.1 基礎情報(人口構成・個人属性)	7
3.2 1日の人の動き	11
3.3 交通手段から見る人の動き	21
3.4 地域から見る人の動き	25

1 調査概要

(1) 調査の目的

本体調査は、小山市内に住む人々の1日の行動に関して、その人の属性(性別、年齢、職業など)、移動目的、利用交通手段、発着地、発着施設、発着時刻などを調査し、市内の様々な交通現象を総合的に捉え、今後の都市交通計画を検討するための基礎的な資料を得るために実施する。

(2) 調査対象区域

小山市全域を対象とする。

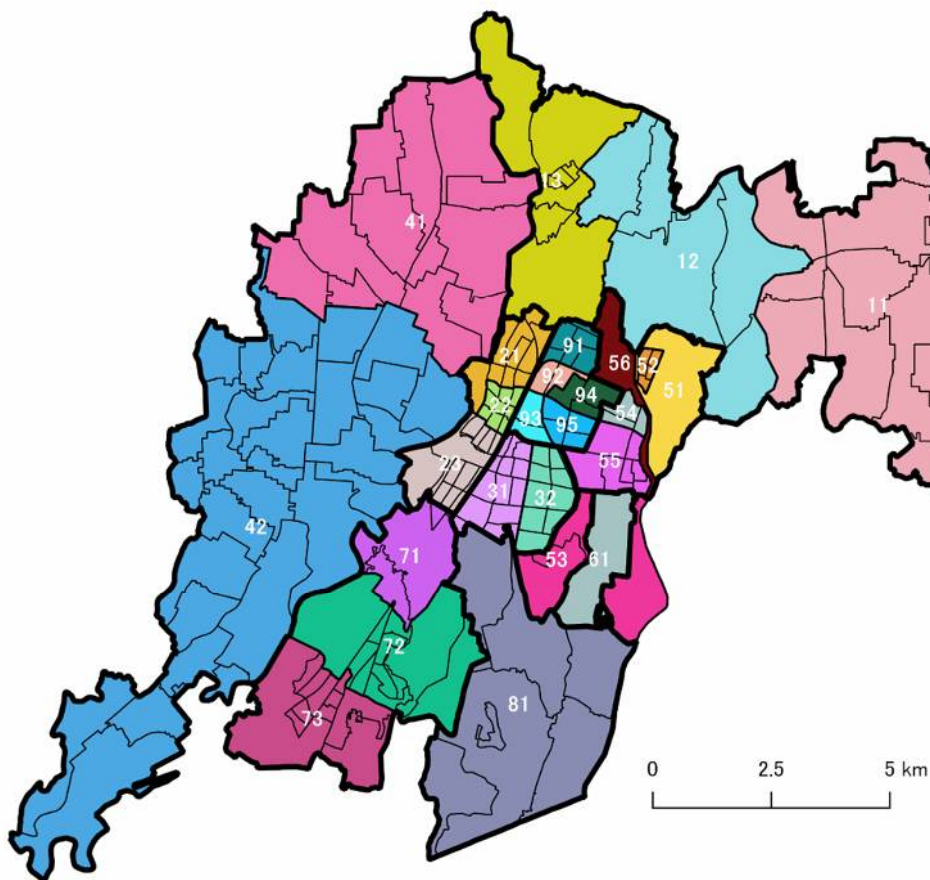
(3) ゾーニングの設定

下記の設定方針に基づき、小山市内でCゾーンを27ゾーン設定した。

【設定方針】

平成27年度全国道路交通センサスの地域との整合をとりながら、地域を分割したCゾーンを設定する。設定にあたっての考え方は以下の通りである。

- a) 時系列での比較を考慮し、平成11年度小山栃木都市圏総合都市交通体系調査のゾーン区分を踏まえて設定
- b) 小山市の交通課題及び将来の方向性を考慮したゾーンを設定
- c) 各ゾーンの人口バランス等を考慮する



※ゾーン No の 1 桁目が地域 No を表す (例 : 41 と 42 ゾーンは同じ地域)

図 ゾーン区分図

(4) 調査時期

調査時期は、下記の点を考慮し、平成30年10月2、3、4日(火、水、木)とした。

- ・ データ処理等の期間を考慮し、10月第1週での実施を想定
- ・ 平日の1日の動きを対象とする（主に日常交通に対応するための施策を検討するため、平日の交通実態を把握する）
- ・ 平均的な交通実態を把握することを目的としているため、人の行動パターンの変動が少ない火、水、木曜日を基準とする
- ・ 普段と異なる移動が見込まれる大きなイベントが開催される日は候補から除外

(5) 調査対象者

小山市内に居住する人口5歳以上の方（平成30年10月1日時点）

(6) 必要標本数・配布数

下記の統計理論にもとづき、必要標本率を設定し、必要標本数・配布数を計算した結果、約5,855世帯から有効票を回収する必要がある。そのためには、約21,686世帯に郵送配布・郵送回収する必要がある。

$$RSD(A) = K \cdot \sqrt{(ZK - 1) \cdot \frac{1-r}{r} \cdot \frac{1}{N}}$$

$r = n / N$ $r =$ 標本抽出率
 $RSD(A) =$ 相対誤差 $N =$ 母集団総数
 $K =$ 信頼度により定まる係数 $n =$ 有効サンプル数
 $ZK =$ カテゴリー数

表 必要標本数・配布数の算定結果

変数名	変数	算定結果	備考
相 対 誤 差	RSD	0.20	
信 頼 係 数	K	1.96	信頼度95%に設定
目 的 種 類		4	[通勤・通学、業務、私事、帰宅]を想定
交 通 手 段		3	[徒歩二輪、自動車、公共交通(鉄道、バス)]を想定
ゾ ー ン 数		27	小山市基本ゾーン数
カ テ ゴ リ ー 数	ZK	324	(基本ゾーン数×目的分類数×手段分類数)
5 歳 以 上 人 口		154,164	H30.7住民基本台帳より
原 単 位 (生 成 原 単 位)		2.17	H27全国都市交通特性調査(地方都市圏：平日)
総 ト リ ッ プ 数	N	334,536(トリップ)	
必 要 標 本 率	r	8.49%	
必 要 標 本 数 (個 人)		13,082	
必 要 標 本 数 (世 帯)		5,855	必要標本数(個人)を平均世帯人員数で除して計算
有 効 回 収 率	α	0.27	
有効回収率を考慮した抽出率		31.43%	
有効回収率を考慮した配布数(個人)		48,452	
有効回収率を考慮した配布数(世帯)		21,686	

(7) 調査方法

【調査票配布方法】

郵送配布

【回収方法】

下記のいずれかの方法にて回答者に選択してもらう

方法1：調査票に回答・郵送による返送

方法2：調査票に記載された URL にアクセスし、インターネット上での回答

(8) 広報活動について

本体調査を円滑に実施し、所要のサンプル数を回収するためには、調査対象者の理解と協力が不可欠である。このため、調査の意義や目的を広く PR し、調査対象者の理解と協力を得やすくするため、事前に調査の広報活動を行った。

広報活動は、調査実施の約1ヶ月前から調査終了までの期間にわたり、下記の広報媒体を活用して実施した。

- ①市報への掲載
- ②市ホームページへの掲載
- ③ポスターの掲示
- ④市のコミュニティ FM の放送
- ⑤テレビ小山の放送

～誰もが移動しやすいまちの実現に向けて～

パーソントリップ調査とは

パーソントリップ調査とは、「どのような人が」「いつ」「どのような目的・交通手段で」「どこからどこへ」移動したかを詳しく調べるものです。
本調査結果は、今後の人口減少・超高齢社会を見据え、誰もが移動しやすいまちの実現に向けた小山市の将来の交通計画を検討するための大切な基礎資料となります。

調査方法

【本調査は締め切りました】
ご自宅等に送付した書類の中に、回答いただく調査日と回答の期限を指定、指定された日1日の行動を記入、記入いただいた「世帯票」と「個人票」を同封されている返信用封筒に入れて期限日までにポストに投函。

調査日

2018年10月2日（火曜日）・3日（水曜日）・4日（木曜日）のうち、いずれか指定された1日

調査対象

市内に居住する5歳以上の方
対象者数：約2万2千世帯（住民基本台帳から無作為抽出）

We bでの回答について

本調査は締め切りました。

回答期限について

2018年10月15日（月曜日）まで

調査期間
平成30年
10～11月

教えてください、 あなたの1日の動き

小山市PT調査HP

小山市 パーソントリップ調査

パーソントリップ調査とは
「どのような人が」「いつ」「どのような目的・交通手段で」「どこからどこへ」「何時の頃」「どのような手段で」移動したかを詳しく調べるものです。
本調査結果は、小山市の将来の交通計画を検討するための基礎資料として活用されます。

調査先送 小山市都市整備部都市計画課 TEL:0285-22-9230

お問い合わせ 小山市パーソントリップ調査相談窓口 (受付時間 9:30～18:00(土・日・祭日))
0120-937-946 / 0120-934-921

ご協力、よろしくお願ひします

図 市ホームページ（左）と掲示ポスター（右）

(9) 調査項目

「パーソントリップ調査における標準調査項目及び集計項目等について：旧建設省都市交通調査室」を基本とし、同時期に実施される東京都市圏の調査と比較検討できるように、整合を図りつつ設定した。

表 調査項目素案

調査票	設問内容	設問項目
世帯票	世帯属性	住所
	世帯構成員の属性	性別
		年齢
		続柄
		職業
		就業形態
		保有運転免許
		自動車の利用可能性
		外出に関する困難の有無
		世帯年収
自動車の保有	自動車、二輪車保有台数	
個人票	トリップ特性	勤務先・通学先・通園先
		始業時刻
		固定勤務時間の有無
		在宅勤務の実施の有無
		外出の有無
		発地場所（所在地）、発施設、着地場所（所在地）、着施設
		消費額
		出発時刻、到着時刻
		目的
		交通手段
		同行人数、同行者
		利用駅（乗車・降車）
		駐輪した場所（二輪車利用者の方のみ）
		運転者（自動車利用者の方のみ）
		高速道路の利用（自動車利用者の方のみ）
		駐車した場所（自動車利用者の方のみ）

整理番号 ※こちらは記入不要です

■記入についてお願い
 ・鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
 ・回答は、の部分(回答欄)に記入いただき、回答欄にがついている場合は、該当する表から数字を選んで記入してください。

本調査は、小山市の将来の交通計画を検討するための基礎資料を得ることを目的とした統計調査です。

1 あなたの世帯の現住所について、お答えください。 ※マンション・アパート等集合住宅の名称・部屋番号まで記入不要です。

栃木県 小山市 町 丁目 番 号
 大字 番地 号

2 あなたの世帯の方全員について、お答えください。 ※15歳未満の未成年者については、個人票の「はじめに」に記入する密保になります。

世帯構成	性別	年齢	世帯主との関係	職業	運転免許保有の有無	運転免許の種類	自由に使える自動車の有無	外出に関する身体的な困難さ
世帯主	1 男 2 女	年 月 日 現在	1 から 選択	1 職業で 11~16 を選択 した人のみ回答 2 その他 を選択	1 持っている 2 持っていない 3 返納した	1 自動車 2 自動二輪車 3 原動機付自転車のみ	1 「ほぼ自分専用の自動車がある」 2 家族共有の自動車がある 3 ない	1 1 から 選択
2人目	1 男 2 女	年 月 日 現在	1 本人					
3人目	1 男 2 女	年 月 日 現在						
4人目	1 男 2 女	年 月 日 現在						
5人目	1 男 2 女	年 月 日 現在						
6人目	1 男 2 女	年 月 日 現在						

3 世帯で保有している自動車や二輪車の台数をお答えください。 ※対応できない場合は、0台と記入ください。

自動車	軽乗用車	乗用車	軽貨物車	貨物自動車
台	台	台	台	台
二輪車	自転車	原動機付自転車 (50cc 以下)	自動二輪車 (50cc を超える)	
台	台	台	台	

4 差し支えなければ、あなたの世帯全員の1年間の総支払額をお答えください。

1	2	3	4	5	6	7	8
200万円未満	200~399万円	400~599万円	600~799万円	800万円~999万円	1000~1499万円	1500~1999万円	2000万円以上

5 世帯で保有している自動車や二輪車の台数をお答えください。 ※対応できない場合は、0台と記入ください。

6 差し支えなければ、あなたの世帯全員の1年間の総支払額をお答えください。

7 不明な点がございましたらコールセンターまでお問い合わせください
 (フリーダイヤル 0120-937-946 / 0120-934-921 午前9時~午後6時(土日祝を除く))

図 調査票(個人票)

整理番号 ※こちらは記入不要です

■記入についてお願い
 ・鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
 ・回答は、の部分(回答欄)に記入いただき、回答欄にがついている場合は、該当する表から数字を選んで、または具体的な数値を記入してください。

本調査は、小山市の将来の交通計画を検討するための基礎資料を得ることを目的とした統計調査です。

5歳以上と平成30年10月1日現在>の方一人ひとりについて記入してください。 ※「調査日」欄に記載の曜日を選択してください。

調査日 月 日 曜日

1 施設の種類

2 目的地

3 出発時刻

4 到着時刻

5 同行人数

6 交通手段

7 駐車場所

8 駐車料

9 駐車場の利用

10 駐車場の利用

11 駐車場の利用

12 駐車場の利用

13 駐車場の利用

14 駐車場の利用

15 駐車場の利用

16 駐車場の利用

17 駐車場の利用

18 駐車場の利用

19 駐車場の利用

20 駐車場の利用

21 駐車場の利用

22 駐車場の利用

23 駐車場の利用

24 駐車場の利用

25 駐車場の利用

26 駐車場の利用

27 駐車場の利用

28 駐車場の利用

29 駐車場の利用

30 駐車場の利用

31 駐車場の利用

32 駐車場の利用

33 駐車場の利用

34 駐車場の利用

35 駐車場の利用

36 駐車場の利用

37 駐車場の利用

38 駐車場の利用

39 駐車場の利用

40 駐車場の利用

41 駐車場の利用

42 駐車場の利用

43 駐車場の利用

44 駐車場の利用

45 駐車場の利用

46 駐車場の利用

47 駐車場の利用

48 駐車場の利用

49 駐車場の利用

50 駐車場の利用

51 駐車場の利用

52 駐車場の利用

53 駐車場の利用

54 駐車場の利用

55 駐車場の利用

56 駐車場の利用

57 駐車場の利用

58 駐車場の利用

59 駐車場の利用

60 駐車場の利用

61 駐車場の利用

62 駐車場の利用

63 駐車場の利用

64 駐車場の利用

65 駐車場の利用

66 駐車場の利用

67 駐車場の利用

68 駐車場の利用

69 駐車場の利用

70 駐車場の利用

71 駐車場の利用

72 駐車場の利用

73 駐車場の利用

74 駐車場の利用

75 駐車場の利用

76 駐車場の利用

77 駐車場の利用

78 駐車場の利用

79 駐車場の利用

80 駐車場の利用

81 駐車場の利用

82 駐車場の利用

83 駐車場の利用

84 駐車場の利用

85 駐車場の利用

86 駐車場の利用

87 駐車場の利用

88 駐車場の利用

89 駐車場の利用

90 駐車場の利用

91 駐車場の利用

92 駐車場の利用

93 駐車場の利用

94 駐車場の利用

95 駐車場の利用

96 駐車場の利用

97 駐車場の利用

98 駐車場の利用

99 駐車場の利用

100 駐車場の利用

図 調査票(世帯票)

2 回収結果

回収結果は、下表の通りである。

項目	内容
配布数	【世帯】 21,687 世帯 【個人】 49,331 人
有効回収数	【世帯】 6,525 世帯 (郵送：5,831 世帯、WEB：694 世帯) 【個人】 14,625 人 (郵送：12,995 人、WEB：1,630 人)
回収率 【個人】	29.6% (郵送：26.3%、WEB：3.3%)

3 調査結果

次項より、得られた調査結果について性別・年齢別・ゾーン別の母集団数に合うように拡大・集計した結果を示す。結果の考察にあたっては、必要に応じて平成 11 年度調査結果※との比較も併せて示す。

なお、地域別の交通特性を把握するために、下記の地域区分を設定することとする。

※平成 11 年度調査は、小山栃木都市圏内の住民が対象者であるため、小山市居住者のデータを抽出して再集計した結果と比較する。

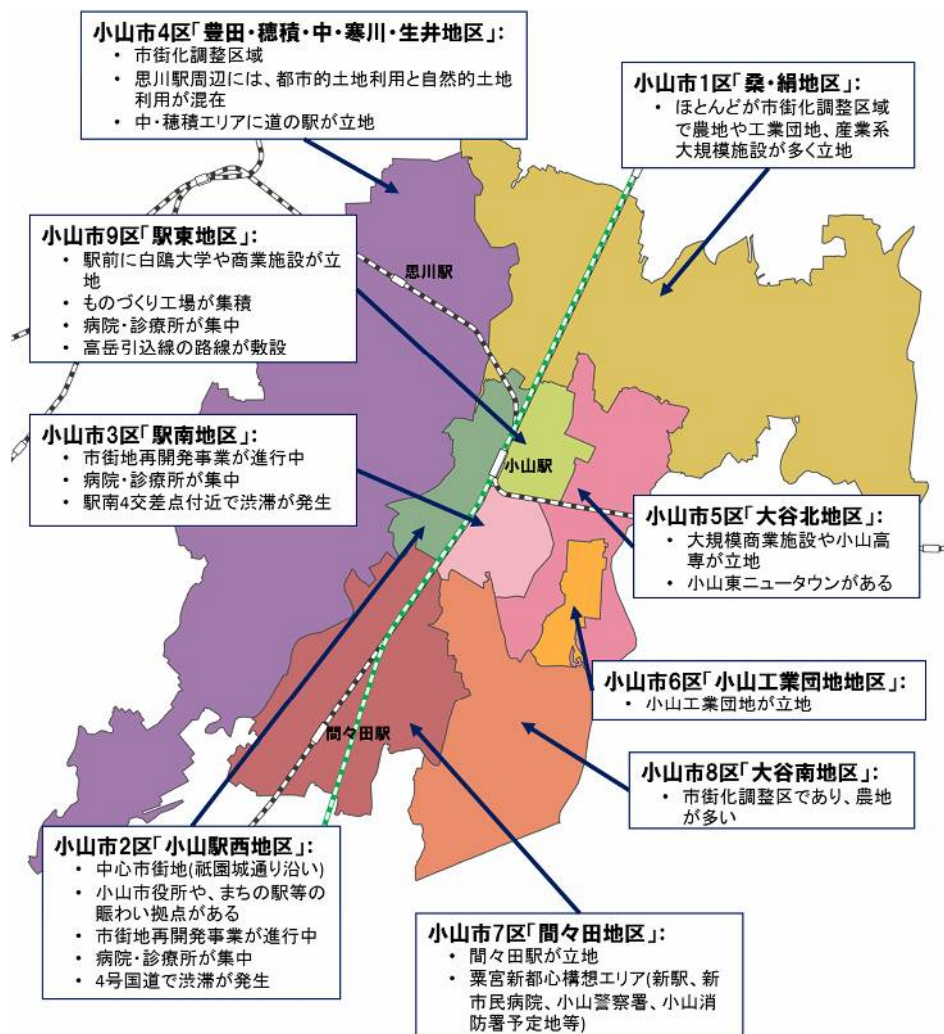


図 地域区分

3.1 基礎情報(人口構成・個人属性)

(1) 人口構成(小山市住民基本台帳より)

1) 男女別・年齢階層別人口構成

65歳以上の人口(高齢者人口)は、平成11年と比較して増加している一方で、64歳以下の人口は減少傾向にある。特に、5歳以上人口に占める高齢者人口割合は平成11年には13.7%であるのに対し、平成30年には26.0%に増加している。男女別・年齢階層別にみても、同様の傾向がみられる。

【5歳以上人口】
 平成11年：143,921人
 平成30年：154,286人

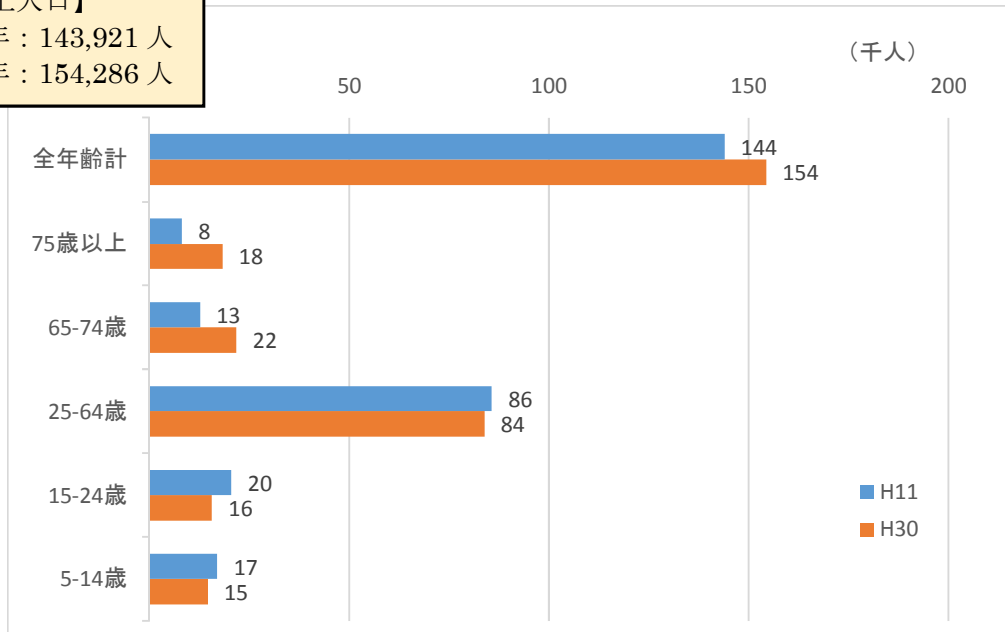
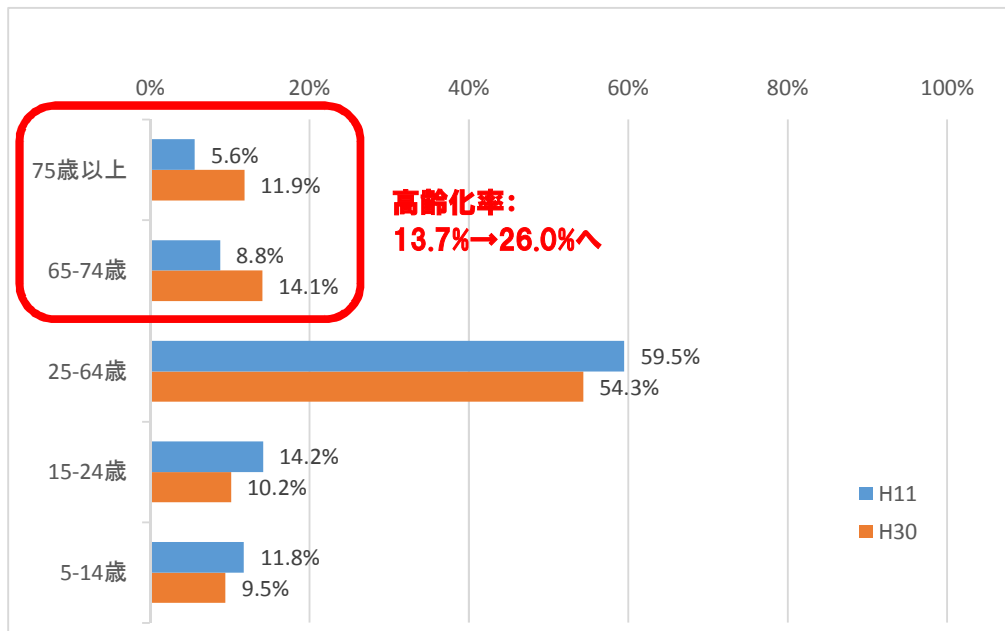
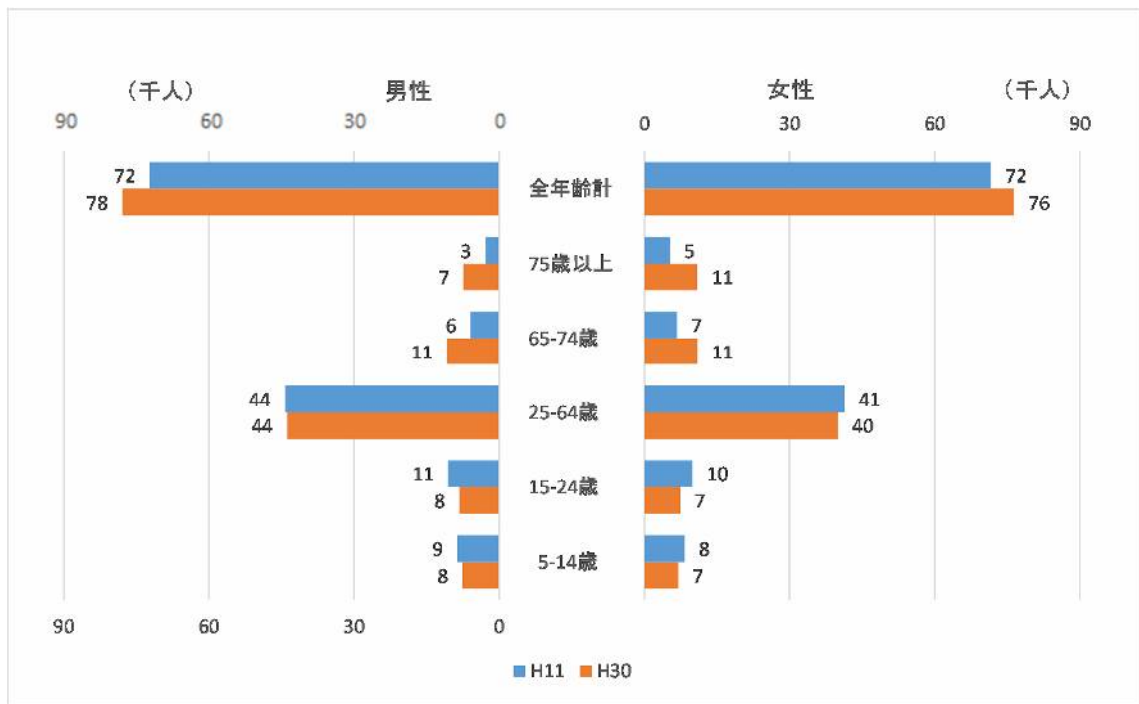


図 年齢階層別人口



出典：小山市住民基本台帳

図 市内人口に占める年齢階層別人口の割合



出典：小山市住民基本台帳

図 男女別・年齢階層別人口

2) 地域・年齢階層別人口構成

地域別にみると、桑・絹地域、豊田・穂積・中・寒川・生井地区、大谷南地区において、5歳以上人口に占める高齢人口割合が3割を超えている。一方で、駅南地区、大谷北地区、小山工業団地地区では、24歳以下の若者の割合が2割を超えている。

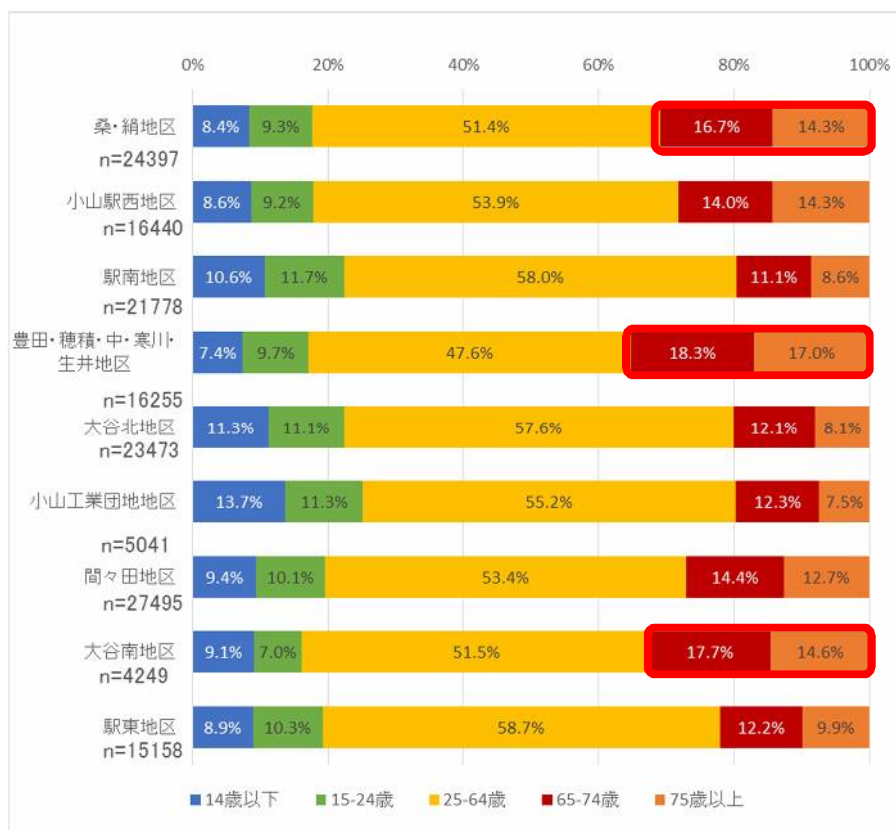


図 地域別・年齢階層別人口構成

(2) 運転免許保有率

1) 男女別・年齢階層別運転免許保有率

運転免許保有率については、平成 11 年と比較して 15～24 歳以外の年齢階層では増加しており、特に高齢者の免許保有率の増加が著しい(例：74 歳以下の女性の運転免許保有率 9.1%→76.0%)。一方で、15～24 歳の若者の免許保有率はやや減少傾向にある。

平成 30 年時点での 75 歳以上の免許返納率は約 1 割程度である。

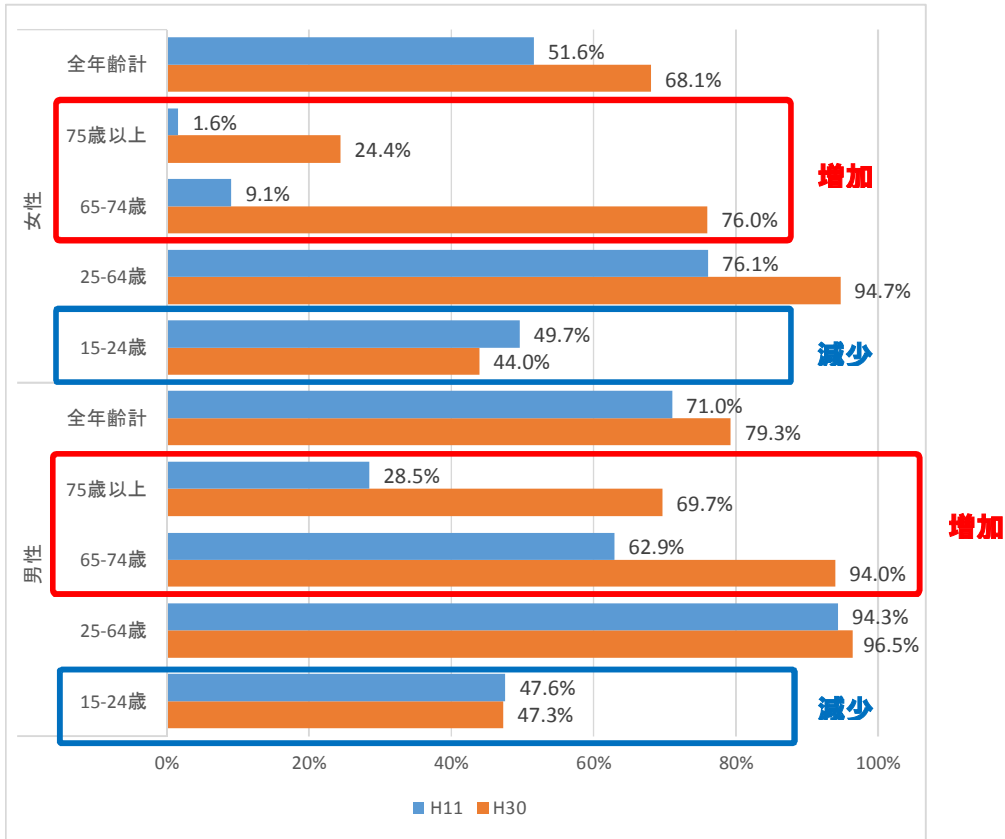


図 男女別・年齢階層別の免許保有状況

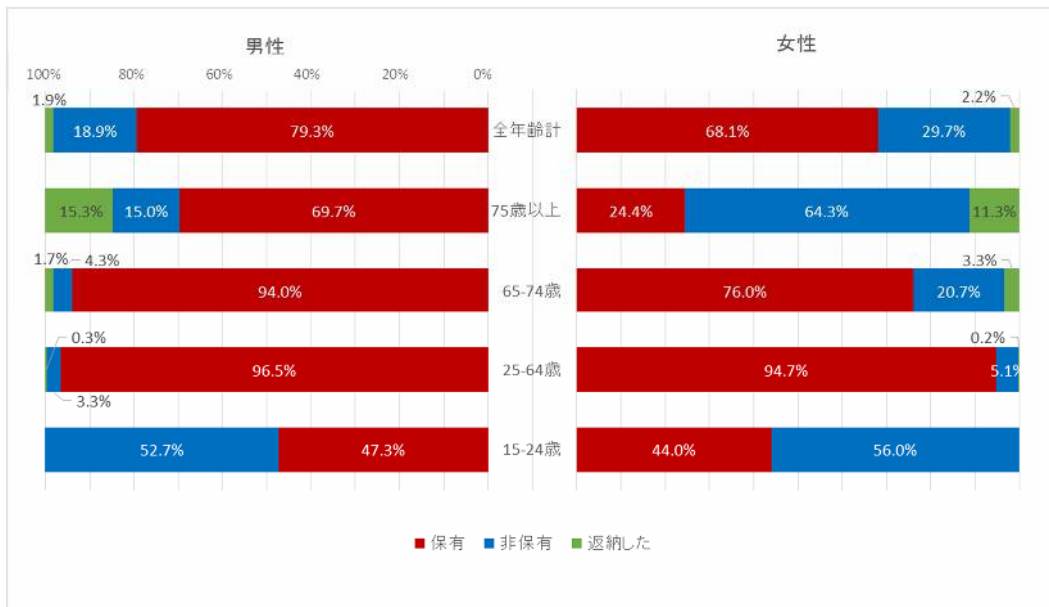
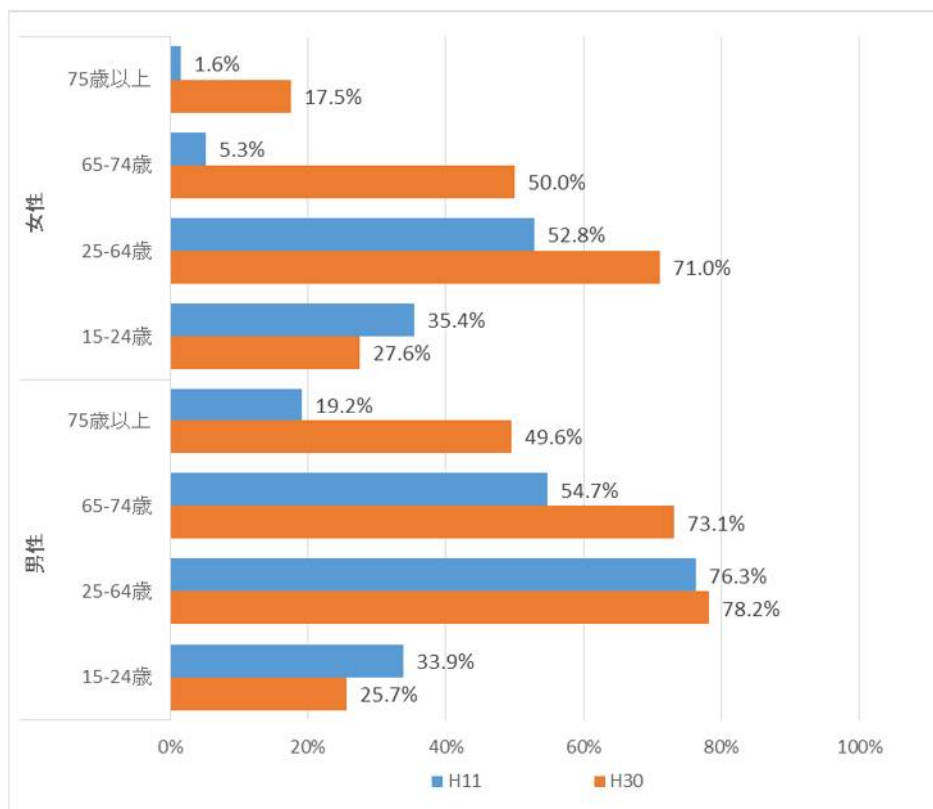


図 男女別・年齢階層別の免許保有状況(平成 30 年度)

(3) 自動車保有状況

1) 男女別・年齢階層別自動車保有状況

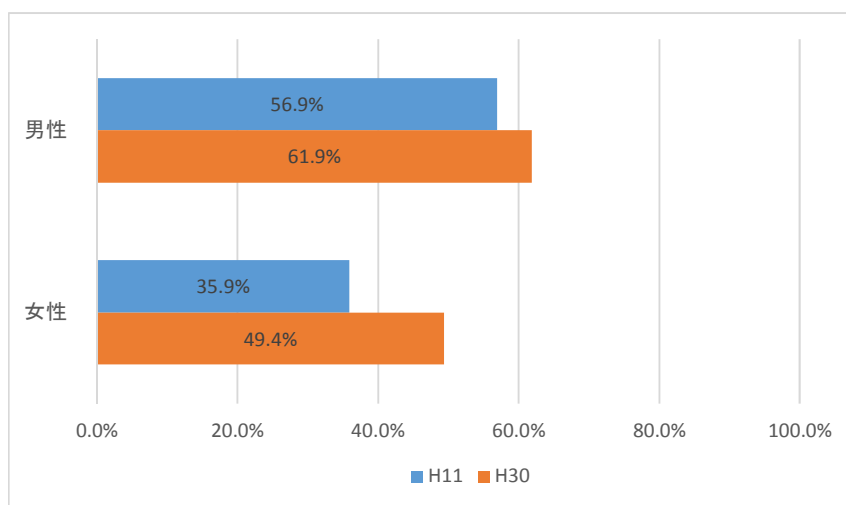
「ほぼ自分専用の車を保有している」人の割合は、平成11年と比べてほとんど全ての年齢層において増加している一方で、15-24歳の若者の割合は減少傾向にある。



※各年齢層毎の人口を母数として算出
 ※「ほぼ自分専用の自動車保有している」人の割合を表示

図 性別・年齢階層別の自動車保有状況

2) 男女別・年齢階層別自動車保有状況(全年齢計)



※各性別の人口を母数として算出
 ※「ほぼ自分専用の自動車保有している」人の割合を表示

図 自動車保有状況(全年齢計)

3.2 1日の人の動き

(1) 外出率

1) 男女別・年齢階層別外出率

65歳以上の高齢者の外出率は64歳以下の外出率と比較して低い傾向にある。

年度別に比較すると、65歳以上の外出率は、平成11年と比較して増加しており、特に75歳以上の外出率が増加傾向にある。一方で、64歳以下の外出率は減少しており、特に15-24歳の若者の外出率が減少傾向にある(90.6%→82.4%)。

男女別・年齢階層別にみても、同様の傾向が見られる。

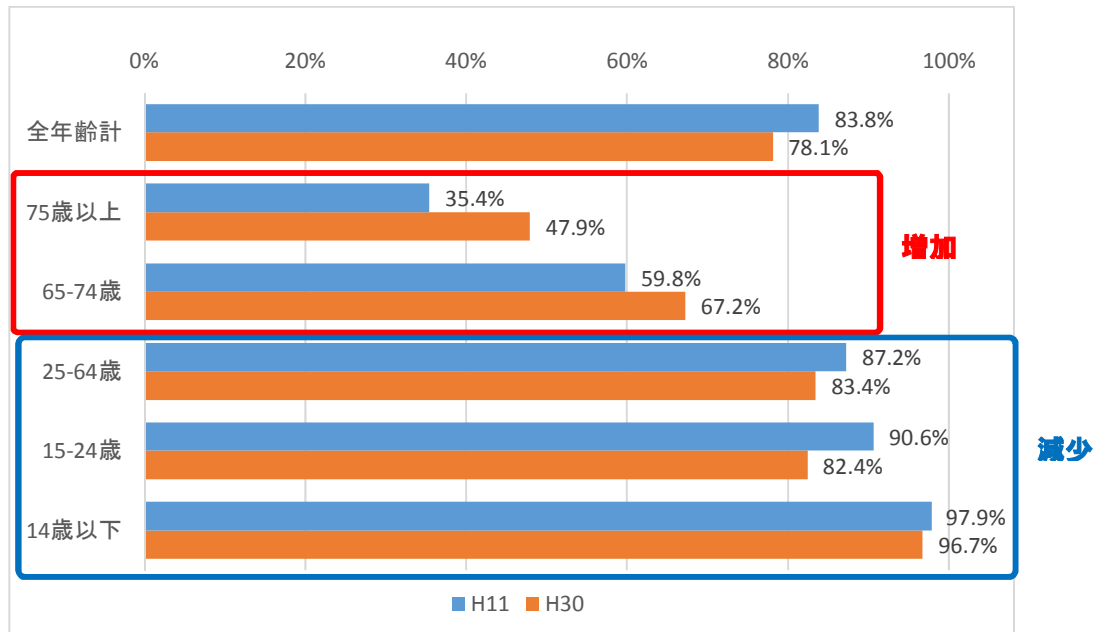


図 年齢階層別外出率

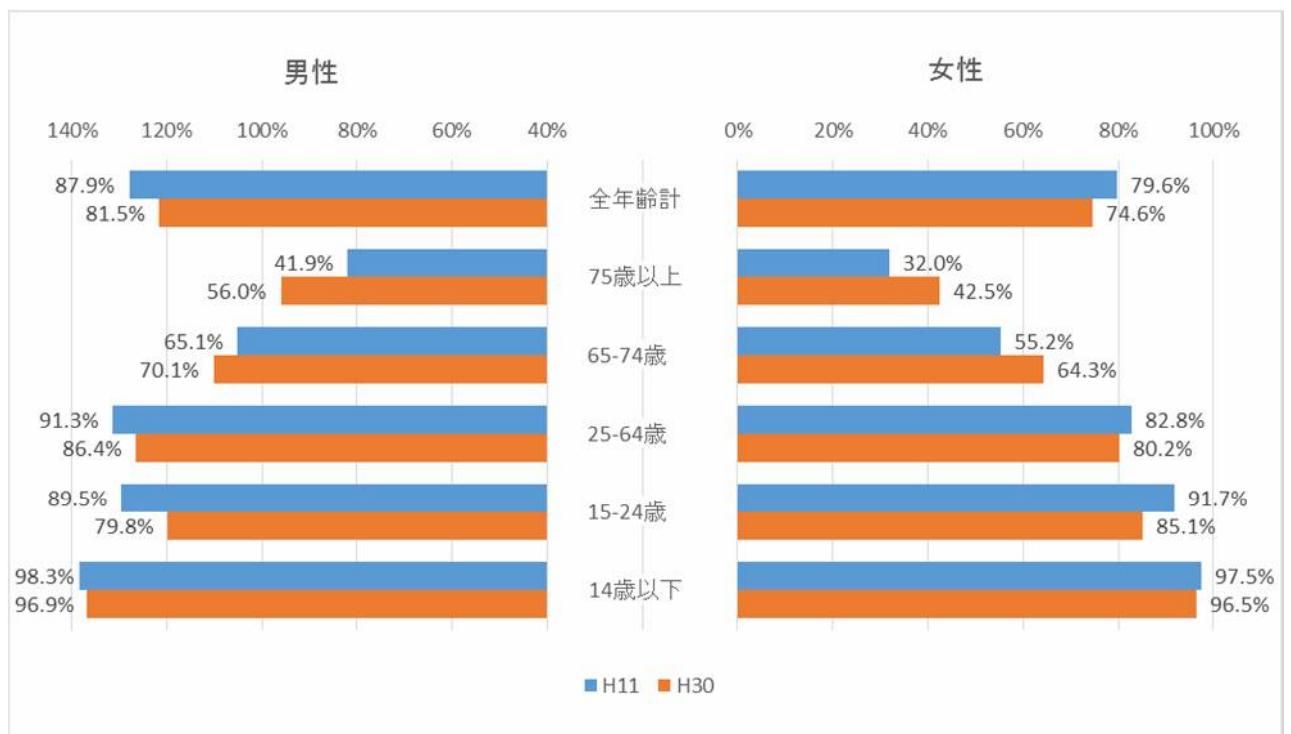


図 男女別・年齢階層別外出率

2) 地域別外出率

桑・絹地区、豊田・穂積・中・寒川・生井地区の居住者は外出率が7割程度である一方、その他の地区の居住者の外出率は約8割程度である。年齢階層別に見ると、特に小山工業団地地区、大谷南地区では、15-24歳の外出率が9割以上と高い傾向にある。

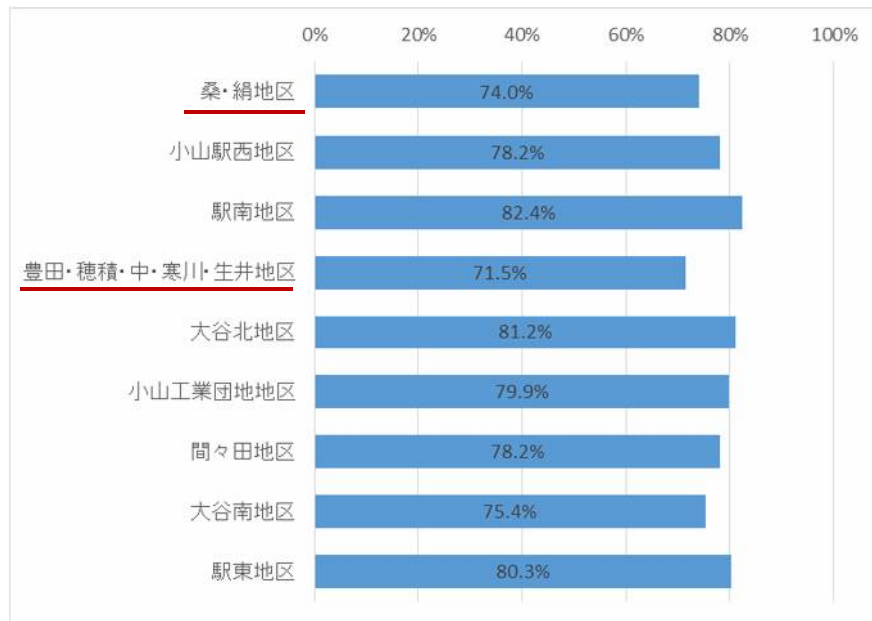


図 地域別外出率

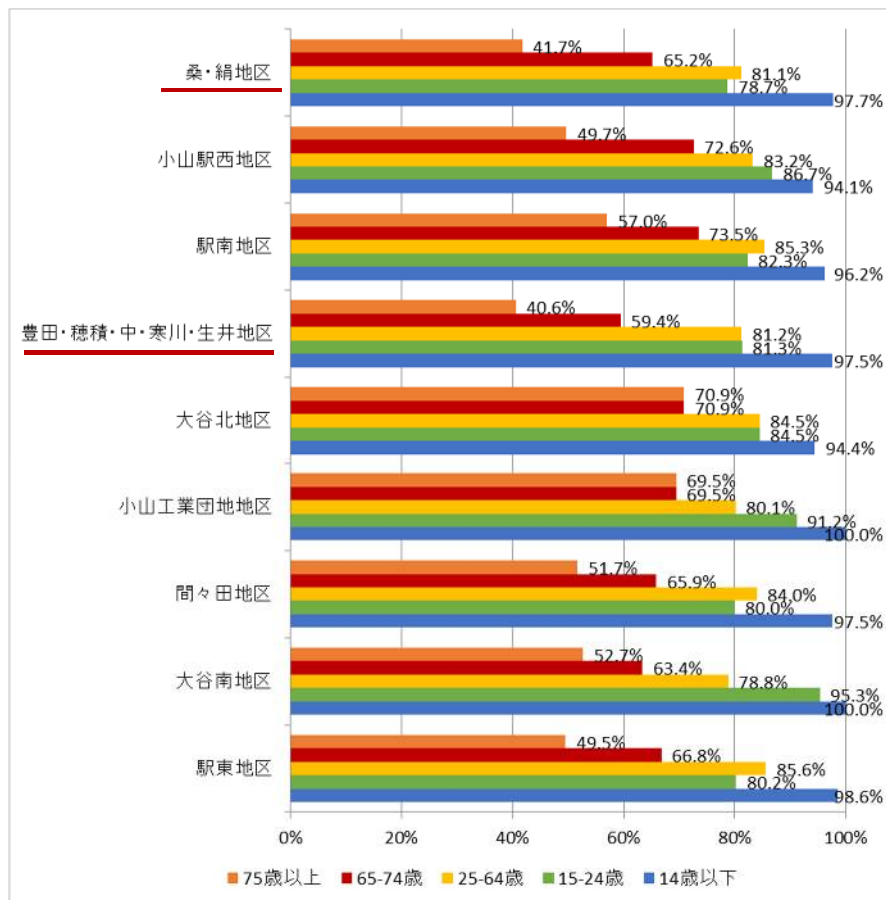
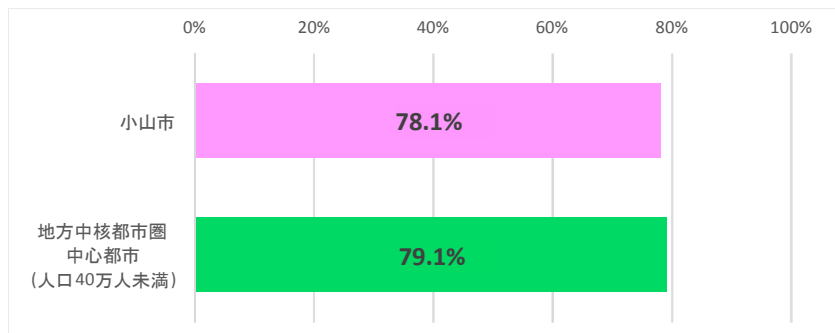


図 地域別・年齢階層別外出率

3) 外出率の他都市圏との比較

平成 27 年全国都市交通特性調査の対象都市のうち、小山市と人口規模が同程度の都市類型である「地方中核都市圏 中心都市(人口 40 万人未満)」と小山市のデータを比較する。

小山市の外出率は、地方中核都市圏(人口 40 万人未満)における外出率と比べて大差はみられない。



※地方中核都市圏 中心都市(人口 40 万人未満)のデータは、平成 27 年全国都市交通特性調査を参照して作成。
なお、上記都市の値は、「弘前市、盛岡市、郡山市、松江市、徳島市、高知市」の値を活用。

図 小山市及び地方中核都市圏(人口 40 万人未満)の外出率

(2) トリップ数・トリップ構成

1) 総トリップ数

平成 30 年の小山市居住者の総トリップ数は約 33 万トリップ/日であり、平成 11 年より約 2 万トリップ/日(5.4%)増加している。

トリップ種別で見ると、市内における移動(内々トリップ)が、約 7 割を占めている。また、内外トリップが平成 11 年から 13.7%増加している。

表 小山市内におけるトリップ数

トリップ種別	H11		H30		トリップ数 増減率
	(トリップ/日)	トリップ種 別構成比 (%)	(トリップ/日)	トリップ種 別構成比 (%)	
市内々	214,357	69.2%	220,707	67.6%	3.0%
市内外	83,593	27.0%	95,032	29.1%	13.7%
市外々	11,700	3.8%	10,722	3.3%	-8.4%
総トリップ数	309,650	100.0%	326,461	100.0%	5.4%

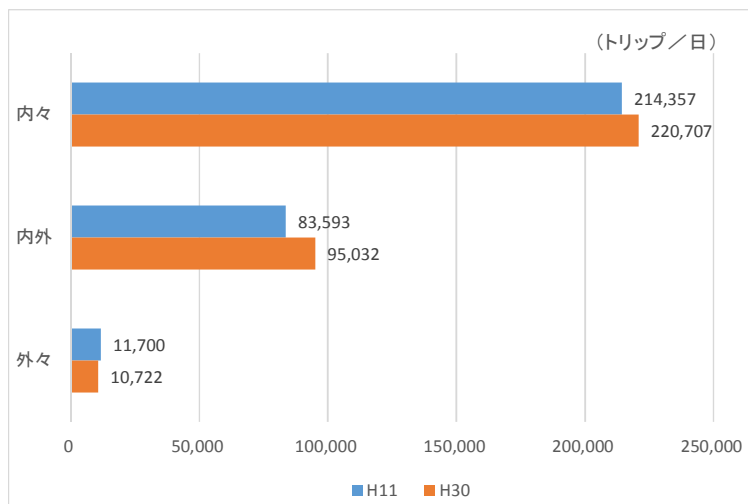


図 小山市内におけるトリップ数

2) 男女別・年齢階層別のトリップ構成

平成 11 年度、平成 30 年度ともに男性より女性の市内外トリップの割合が多い傾向にある。年齢階層別で見ると、平成 11 年度、平成 30 年度ともに 14 歳以下が最も市内々トリップの割合が高く、15-24 歳の市内々トリップの割合が最も低い傾向にある。その後、高齢になるにつれて、市内々トリップの割合は高くなっている。

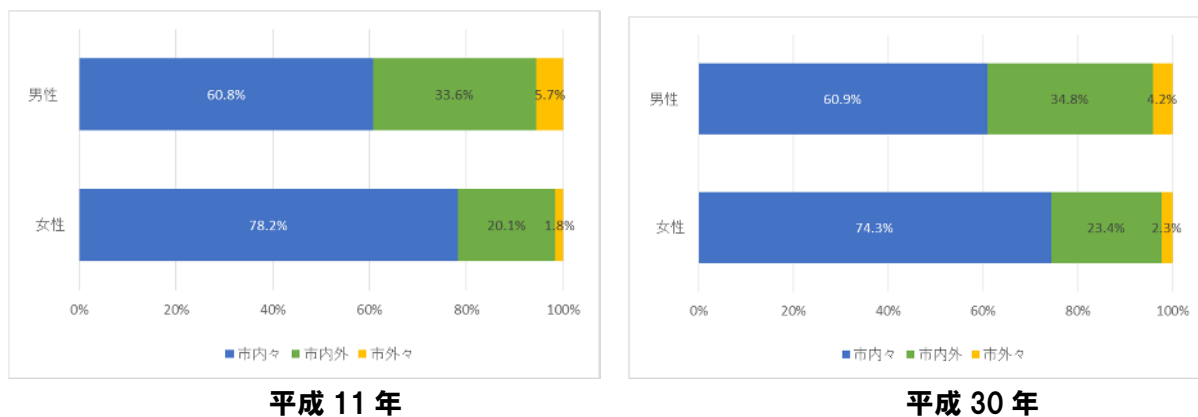


図 男女別トリップの構成

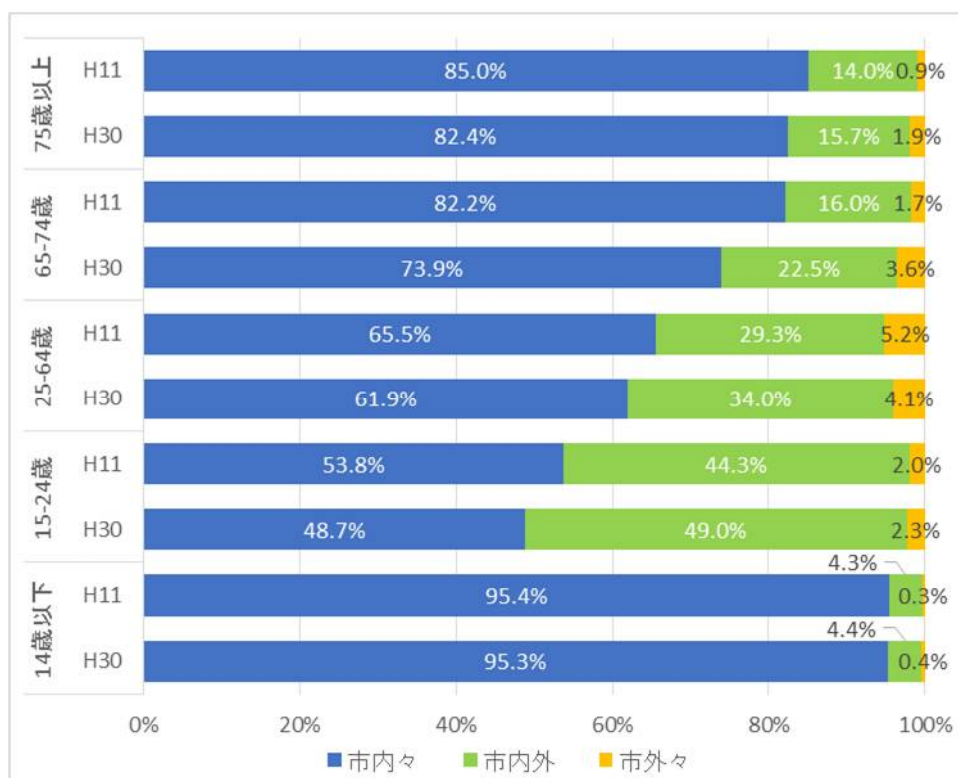


図 年齢階層別トリップの構成

3) 地域別のトリップ構成

桑・絹地区の居住者は、他の地域の居住者と比較して市内々トリップ割合が 60.4%と低く、内外トリップ割合が 35.2%と高い傾向にある。

表 地域別のトリップ構成

Bゾーン	市内々	市内外	市外々	合計
桑・絹地区	30,018	17,498	2,148	49,664
	60.4%	35.2%	4.3%	100.0%
小山駅西地区	25,166	9,131	1,077	35,374
	71.1%	25.8%	3.0%	100.0%
駅南地区	34,303	12,909	1,198	48,410
	70.9%	26.7%	2.5%	100.0%
豊田・穂積・中・寒川・生井地区	20,819	9,596	1,271	31,686
	65.7%	30.3%	4.0%	100.0%
大谷北地区	36,584	12,982	1,510	51,076
	71.6%	25.4%	3.0%	100.0%
小山工業団地地区	7,775	2,621	311	10,707
	72.6%	24.5%	2.9%	100.0%
間々田地区	37,443	17,919	1,917	57,279
	65.4%	31.3%	3.3%	100.0%
大谷南地区	6,195	2,226	100	8,521
	72.7%	26.1%	1.2%	100.0%
駅東地区	22,404	10,150	1,190	33,744
	66.4%	30.1%	3.5%	100.0%
小山市計	220,707	95,032	10,722	326,461

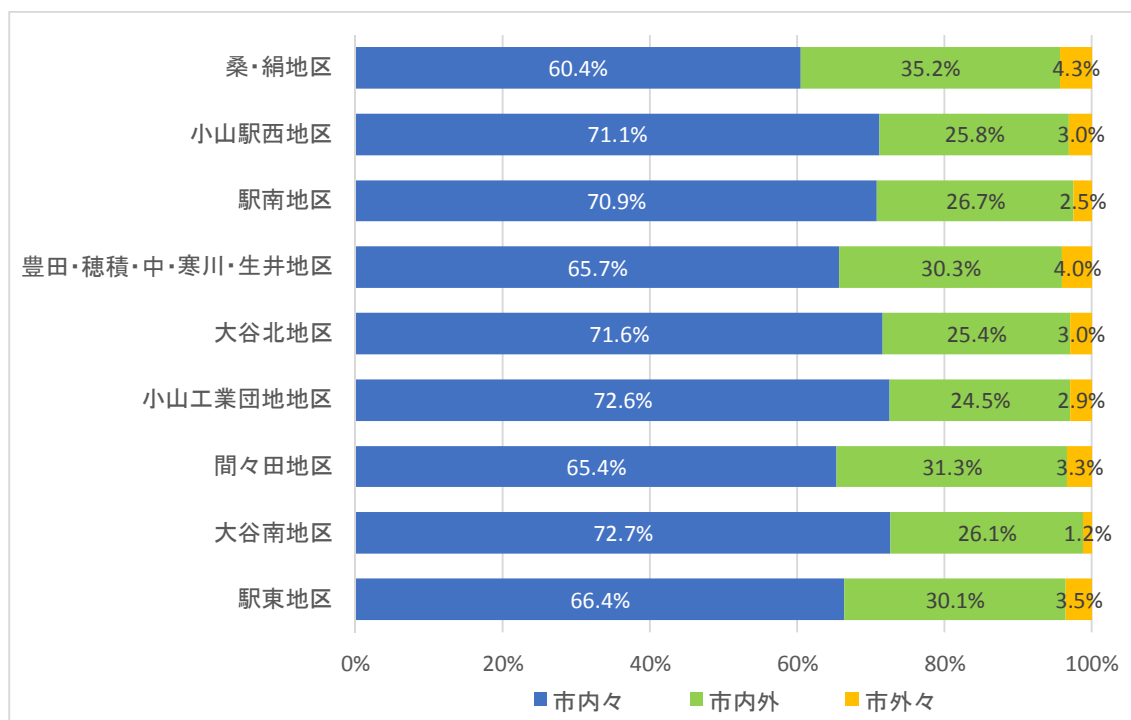


図 地域別のトリップ構成

(3) 平均トリップ数

1) 男女別・年齢階層別平均トリップ数

平成30年の平均トリップ数(グロス)は2.12回/日であり、平成11年と比べて大差は見られない。年齢階層別・男女別の平均トリップ数をみると、男女ともに65歳以上の階層で平均トリップ数が増加傾向にある(0.4~0.6回/日)。一方で、15-64歳の男性の平均トリップ数は減少している。

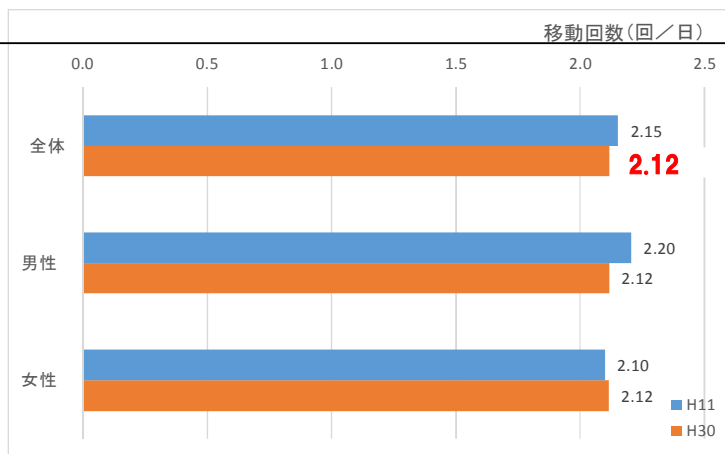


図 男女別平均トリップ数(グロス：1人あたりトリップ数)

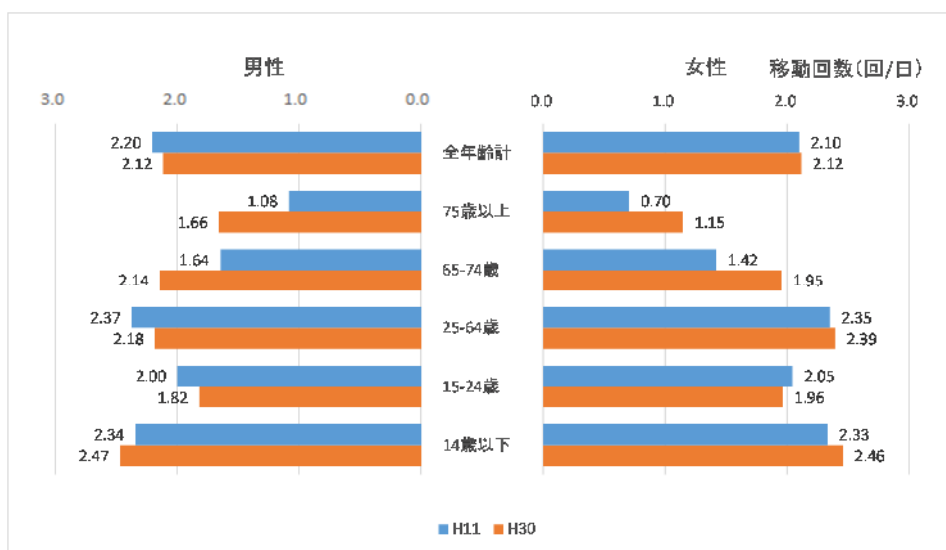
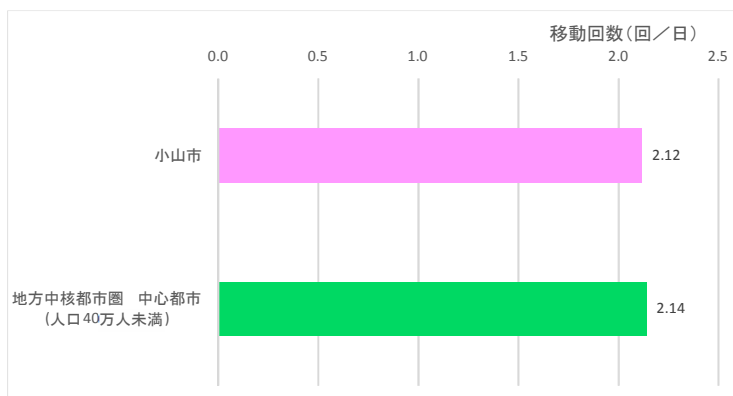


図 年齢階層別男女別平均トリップ数(グロス：1人あたりトリップ数)



※地方中核都市圏 中心都市(人口40万人未満)のデータは、平成27年全国都市交通特性調査を参照して作成。

図 小山市及び地方中核都市圏 中心都市(人口40万人未満)の平均トリップ数(グロス：1人あたりトリップ数)

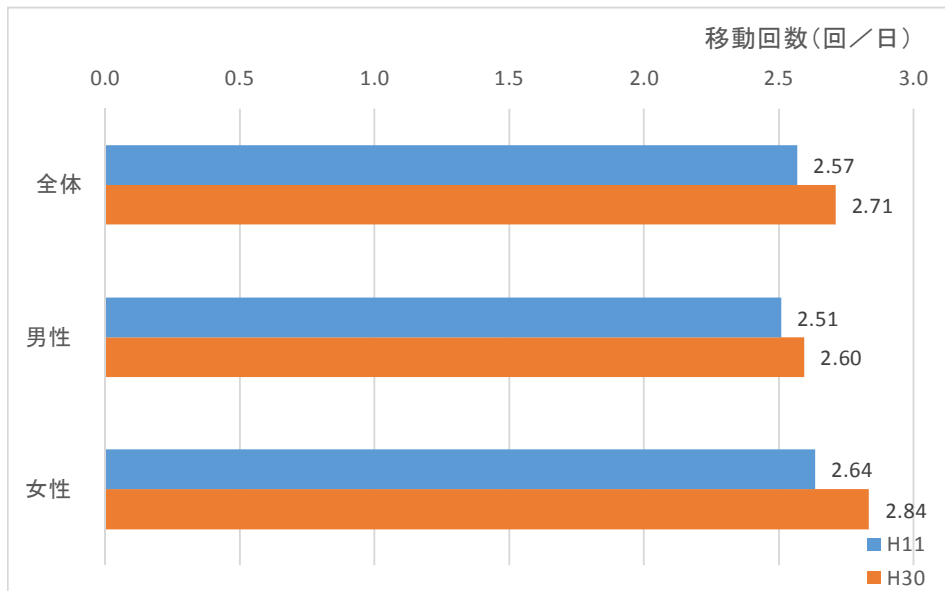


図 男女別平均トリップ数(ネット：外出者1人あたりトリップ数)

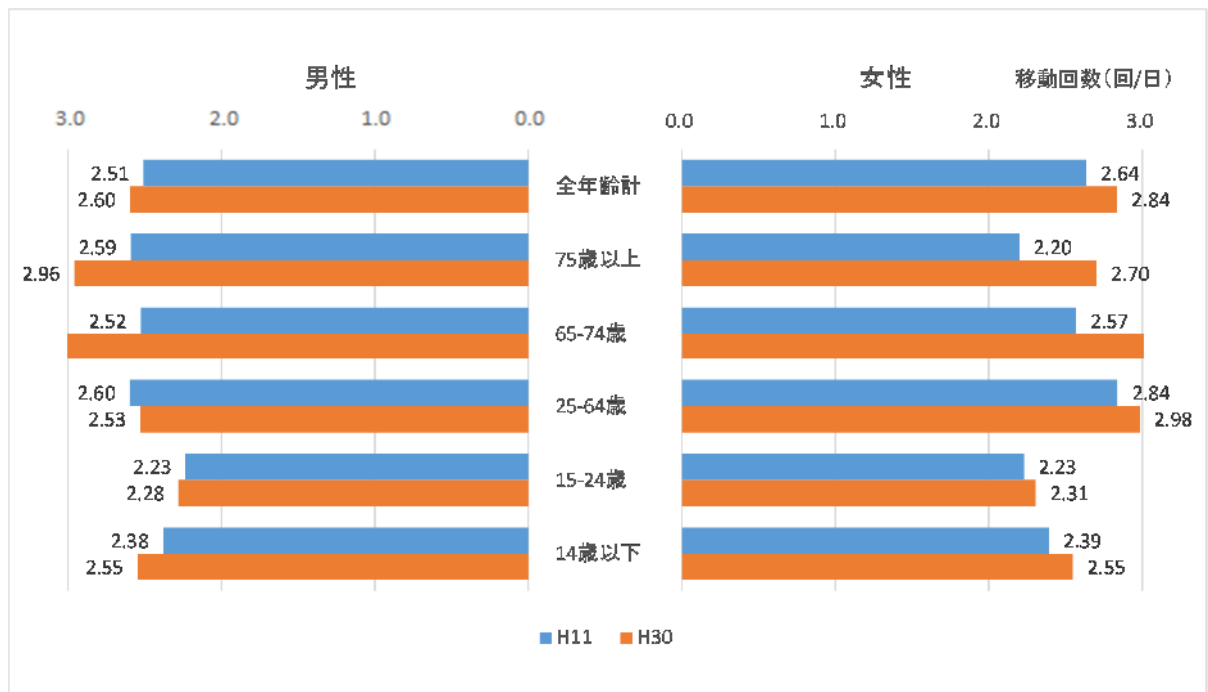


図 年齢階層別男女別平均トリップ数(ネット：1人あたりトリップ数)

2) 地域別平均トリップ数

桑・絹地区、豊田・穂積・中・寒川・生井地区、大谷南地区の平均トリップ数が、全体の平均トリップ数 2.1 を下回っている。

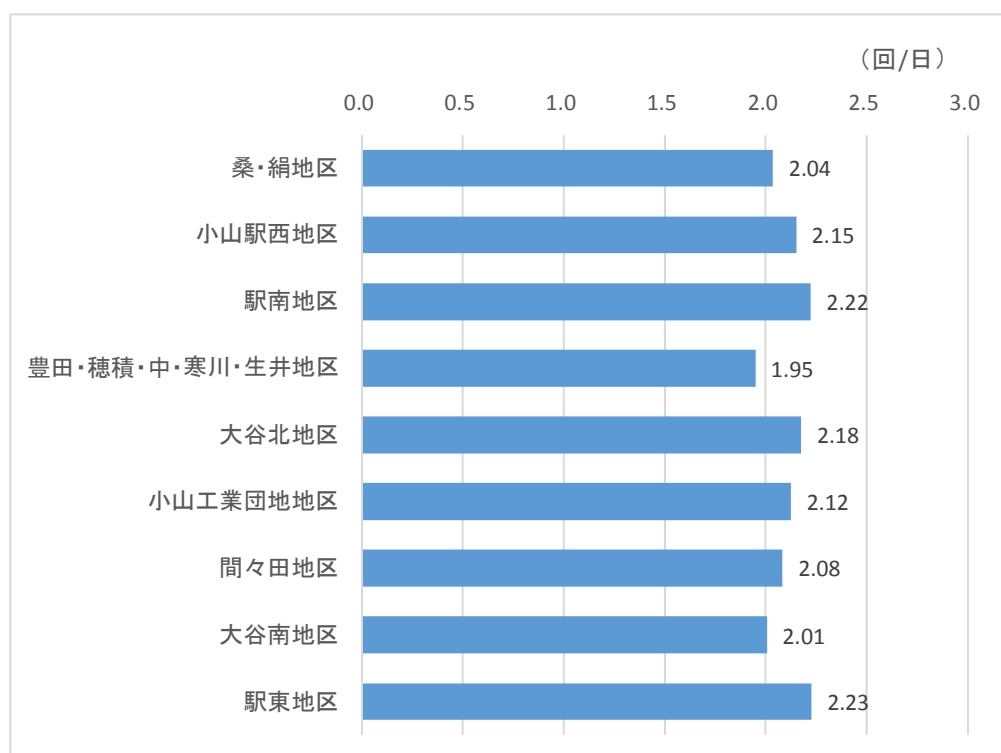


図 地域別平均トリップ数(グロス：1人あたりトリップ数)

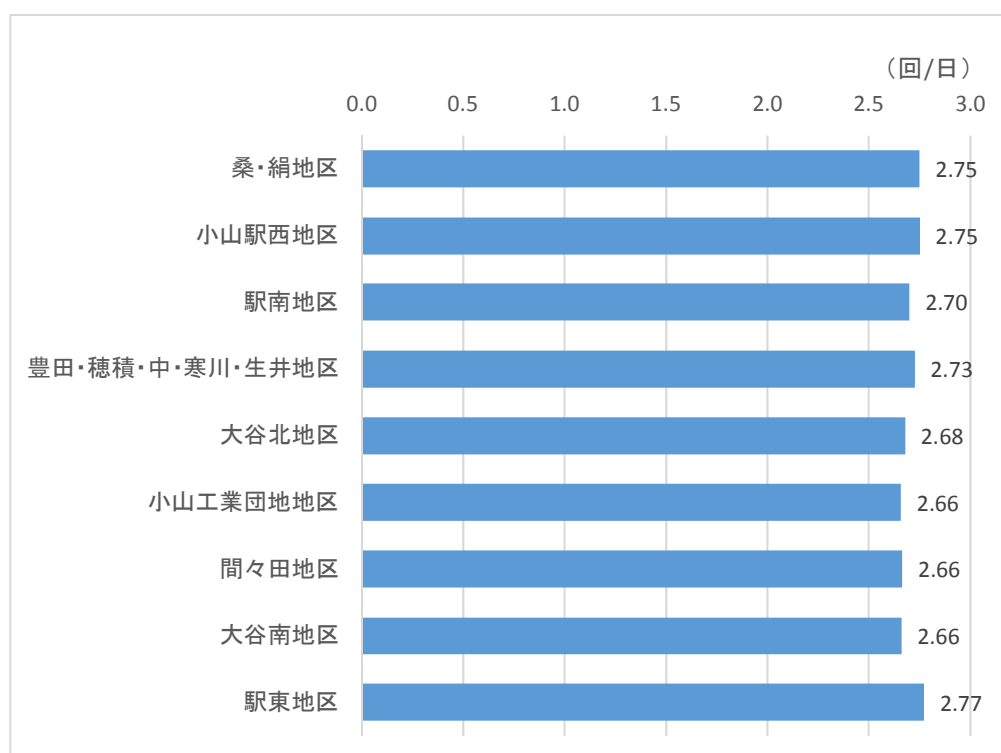


図 地域別平均トリップ数(ネット：1人あたりトリップ数)

(4) 目的構成

1) 小山市全体のトリップ数・トリップ構成比

平成 11 年と比較すると、私用目的による移動が約 3 万トリップ増加している一方で、業務目的による移動が約 1.5 万トリップ減少している。

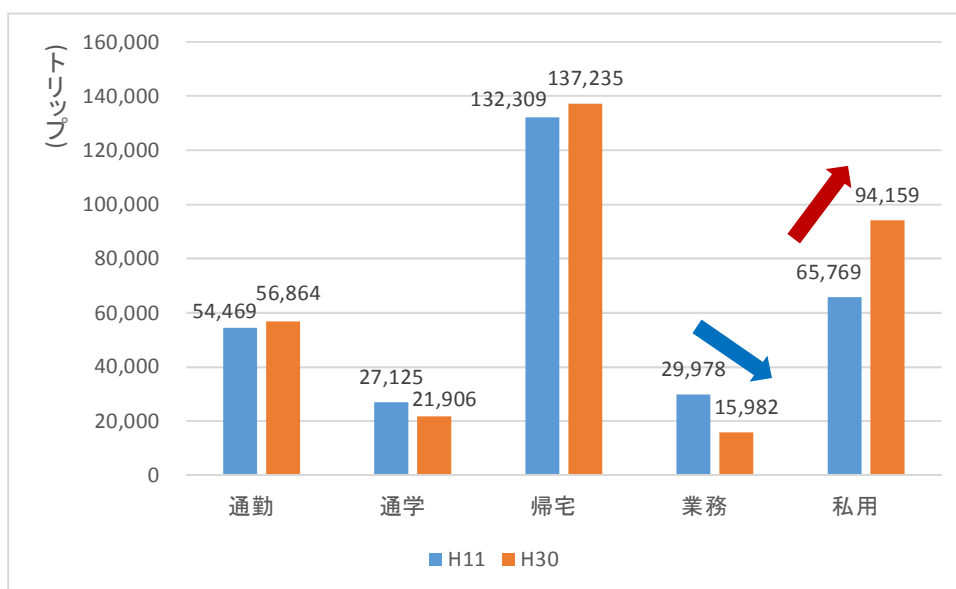


図 目的種別トリップ数

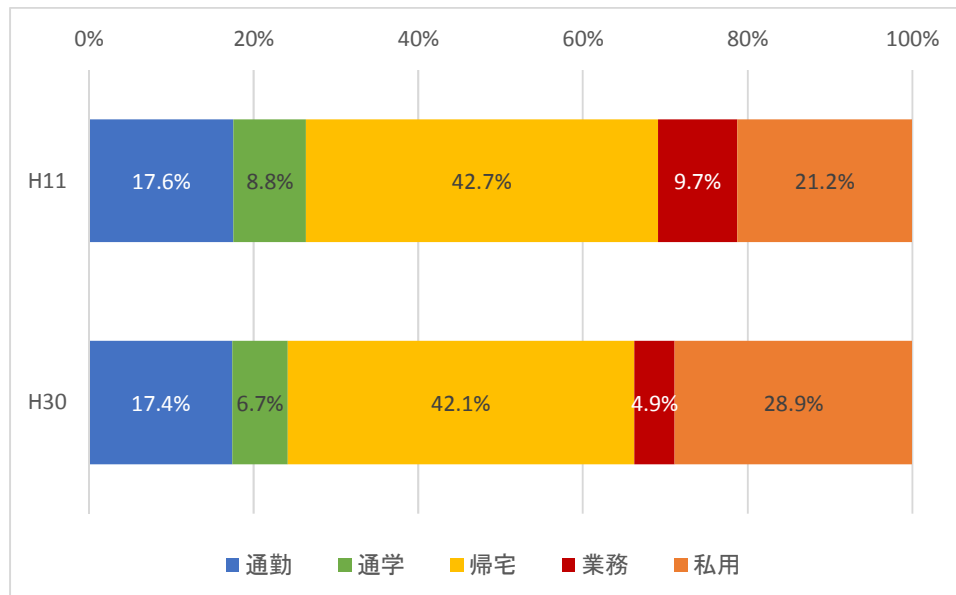


図 目的構成

2) 年齢階層別のトリップ構成比

年齢階層別にみると、75歳以上の高齢者の私用目的での移動割合が約1割増加している。

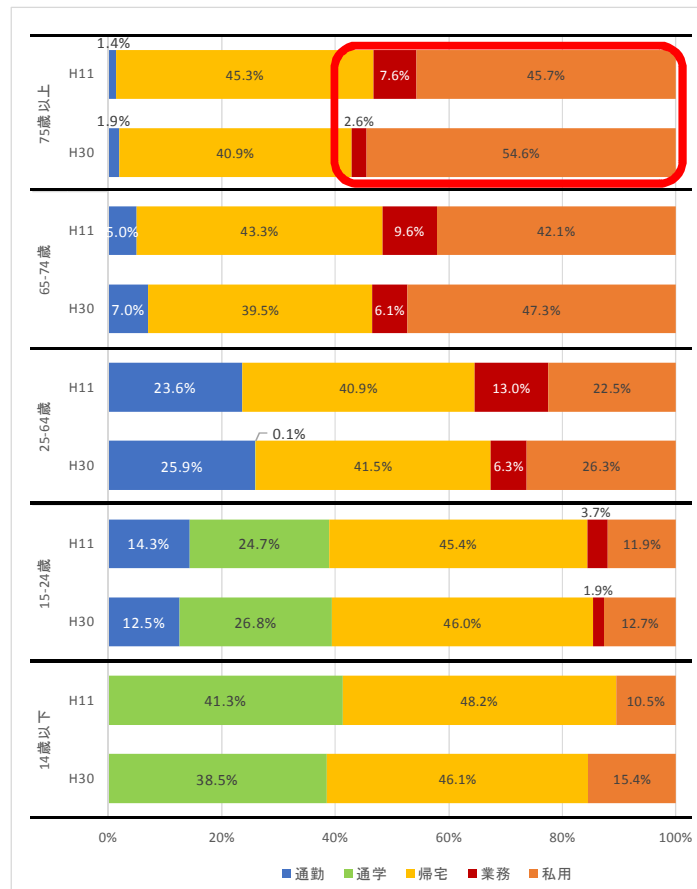
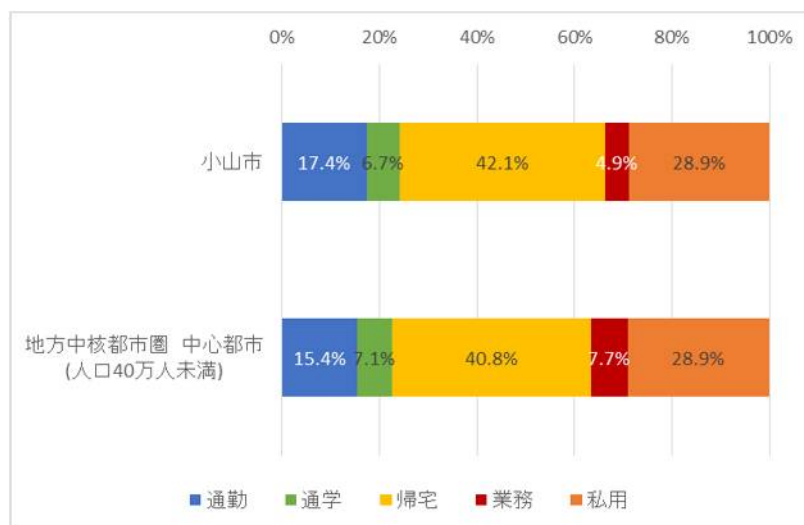


図 年齢階層別のトリップ目的構成

3) 他都市圏との比較

小山市のトリップ目的構成比は、地方中核都市圏 中心都市(人口 40 万人未満)の目的構成比と比べて大差はみられない。



※地方中核都市圏 中心都市(人口 40 万人未満)のデータは、平成 27 年全国都市交通特性調査を参照して作成

図 小山市と地方中核都市圏 中心都市(人口 40 万人未満)のトリップ目的構成

3.3 交通手段から見る人の動き

(1) 代表交通手段構成

1) 小山市全体のトリップ数・トリップ構成比

平成 11 年と比較すると、自動車による移動が約 3.6 万トリップ増加し、バスによる移動が約 500 トリップ増加している一方で、鉄道、二輪車、自転車、徒歩による移動が減少している。

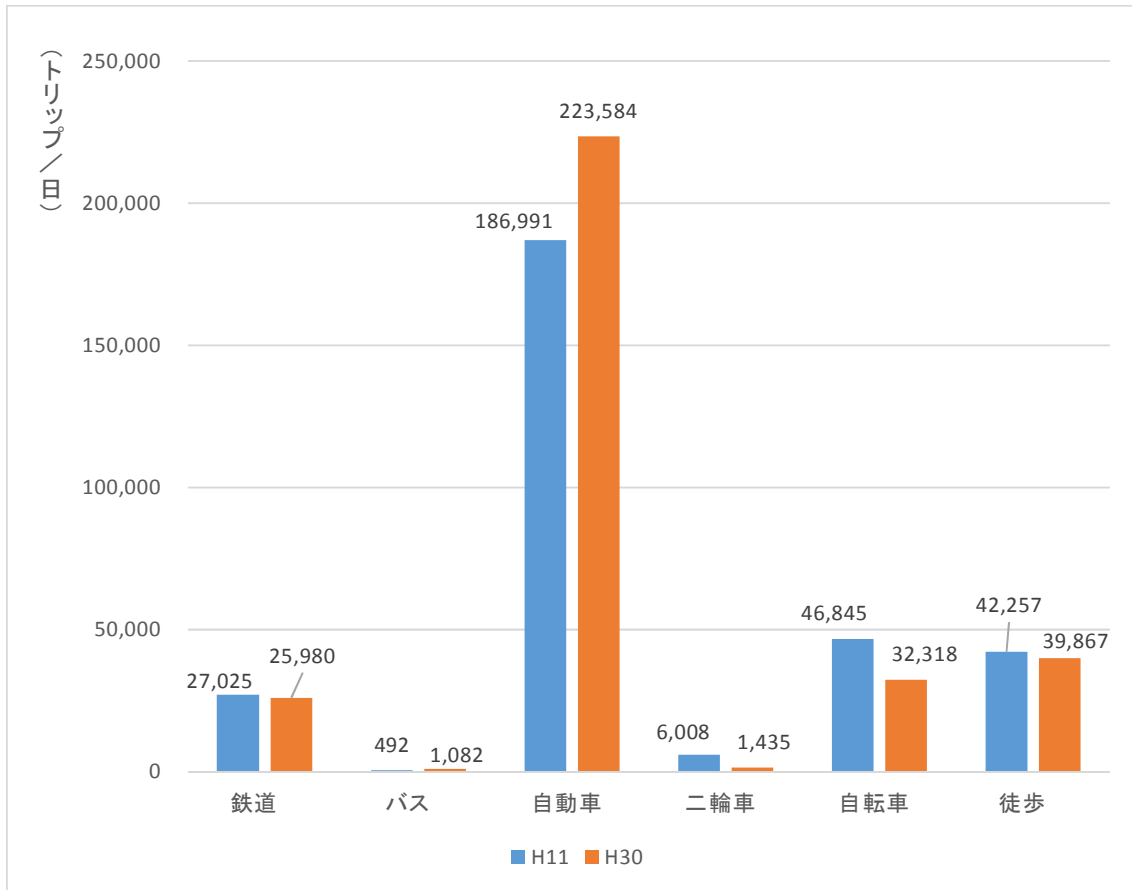


図 代表交通手段別のトリップ数

2) 年齢階層別の代表交通手段構成比

自動車利用割合が 69.0%と依然として高く、平成 11 年から約 9%増加している一方、自転車の交通分担率が約 5%減少している。

年齢階層別にみると、15-24 歳以外の年齢層では、自動車交通分担率が増加しており、特に 75 歳以上において約 2 倍増加している一方で、15-24 歳の若者の自動車利用割合は減少傾向にある。また、75 歳以上において、バスの交通分担率が微増している。

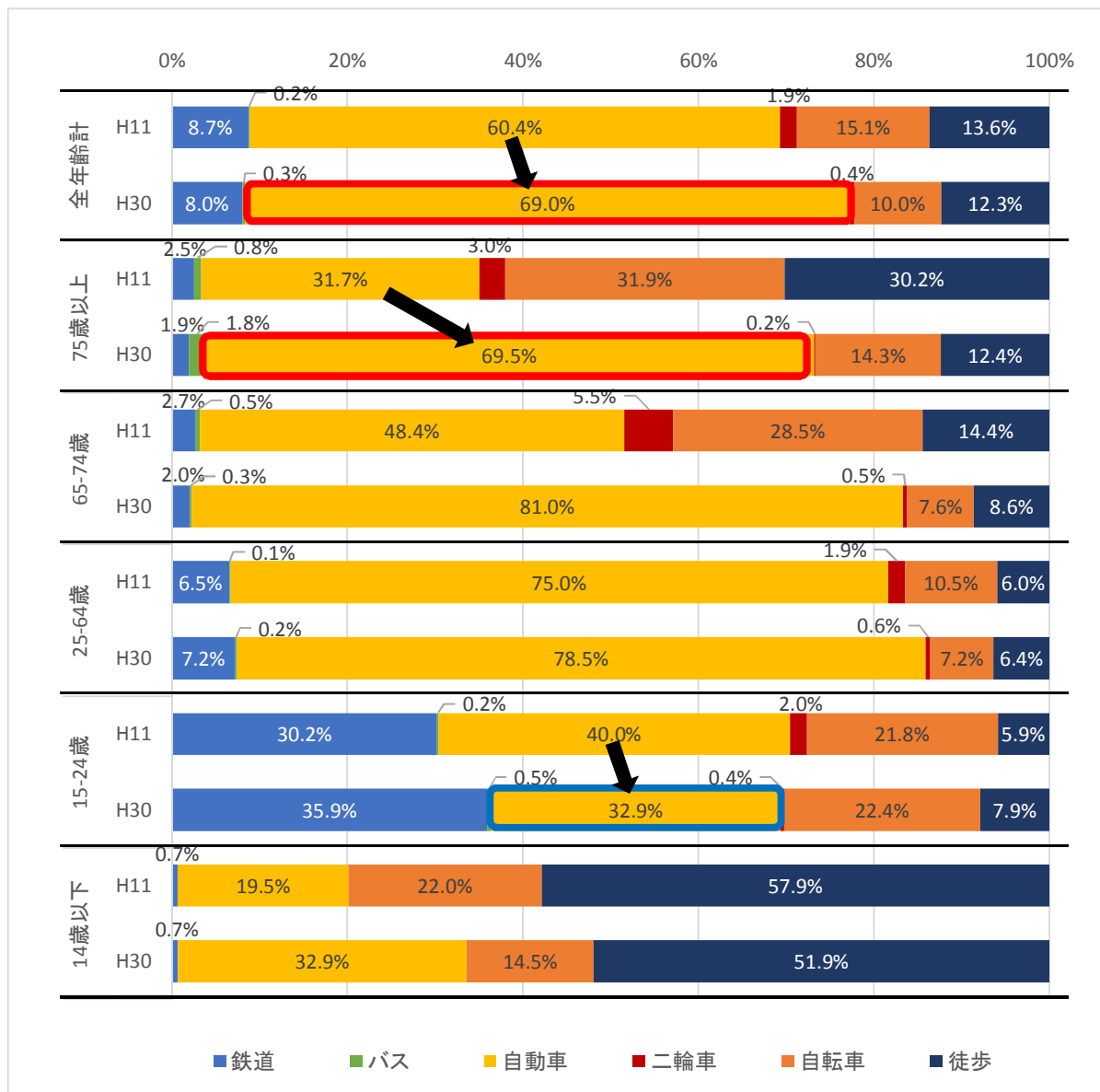
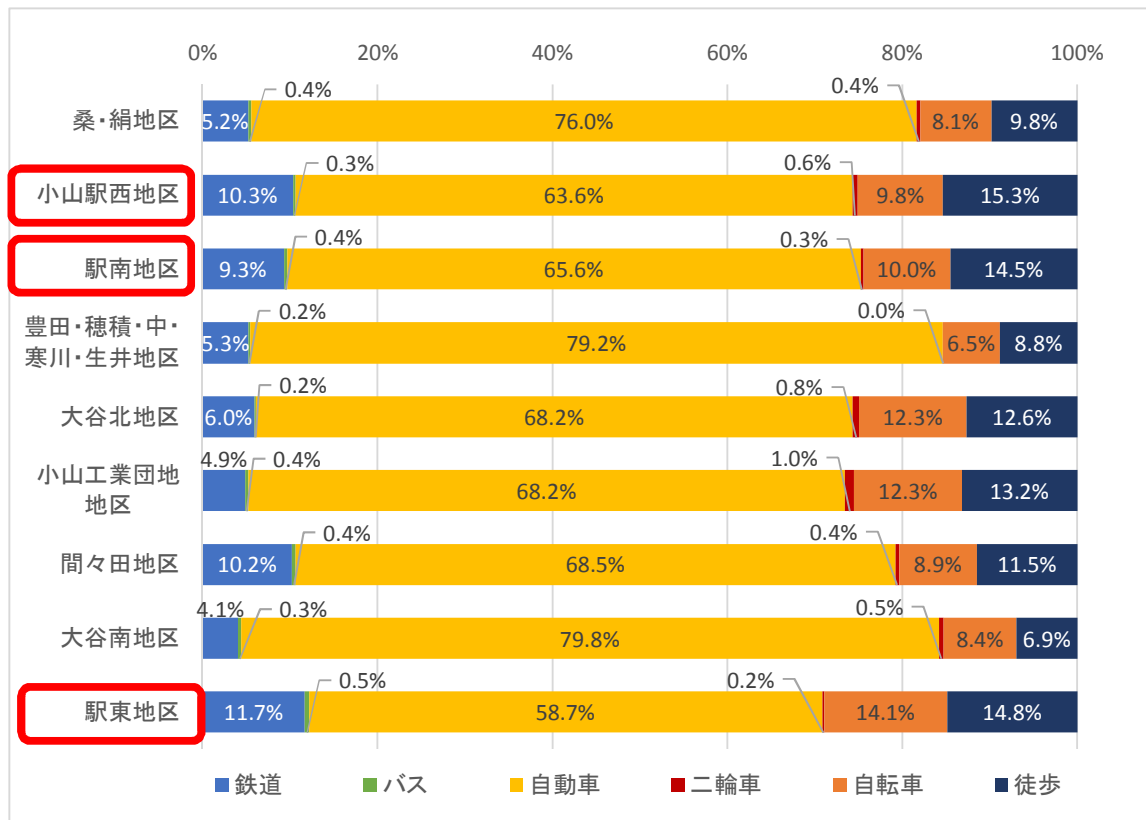


図 年齢階層別代表交通手段構成

3) 地域別の代表交通手段構成比

桑・絹地区、豊田・穂積・中・寒川・生井地区、大谷南地区において、自動車交通分担率が約8割と高い一方で、小山駅西地区、駅東地区は約6割と低い。



○: 小山駅周辺地区

図 地域別代表交通手段構成

4) 目的構成別の代表交通手段構成比

私用目的において、自動車の交通分担率が約1割増加している。

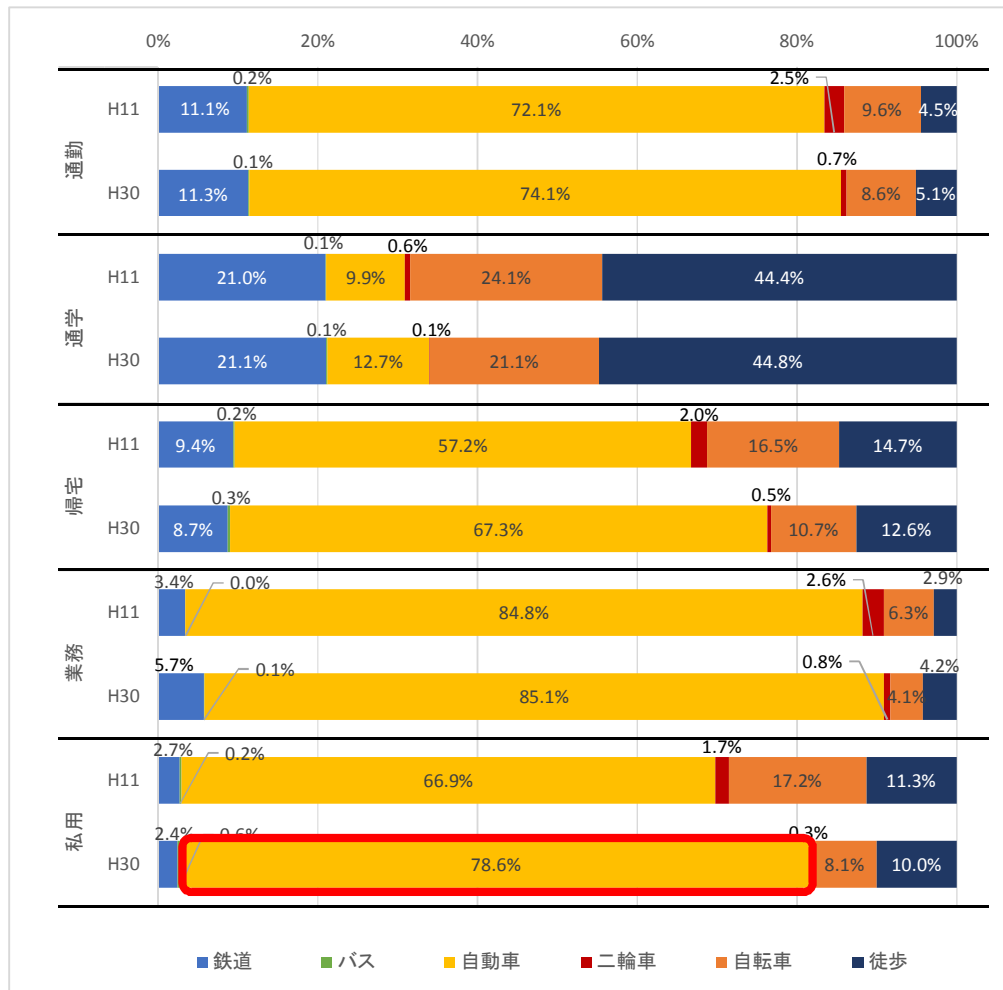


図 目的構成別代表交通手段構成

5) 他都市圏との比較

小山市は、地方中核都市圏 中心都市(人口40万人未満)に比べて鉄道分担率や自動車交通分担率が若干高い傾向にある一方で、自転車や徒歩の分担率には比較的低い傾向にある。

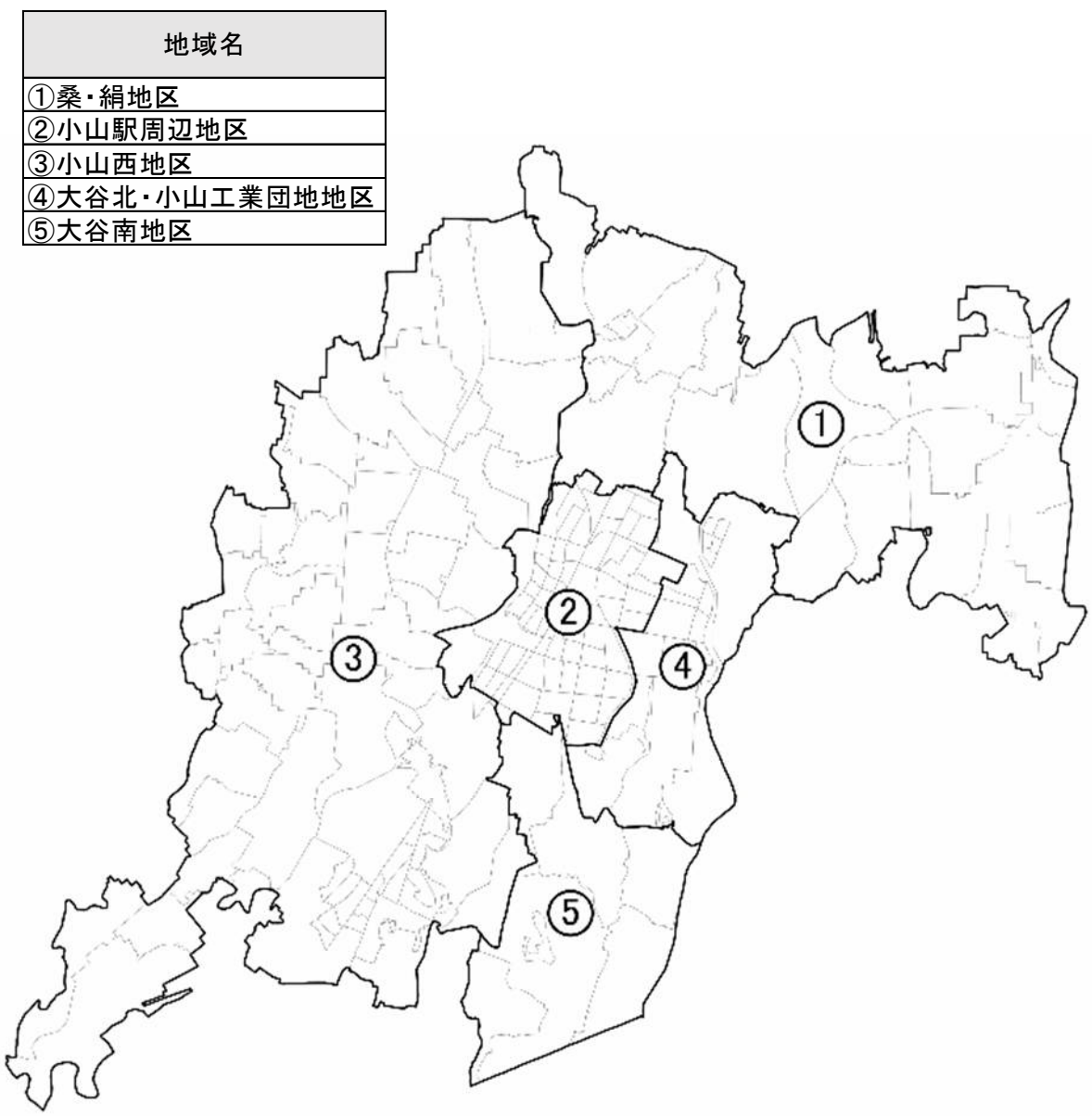


※地方中核都市圏 中心都市(人口40万人未満)のデータは、平成27年全国都市交通特性調査を参照して作成

図 小山市及び地方中核都市圏 中心都市(人口40万人未満)の代表交通手段構成

3.4 地域から見る人の動き

地域別の発生集中量や地域間のトリップ数について示す。なお、平成 11 年度調査との比較に当たり、地域区分をおおよそ揃えるため、下図の地域区分を設定することとする。



※データの都合上、平成 11 年調査において、一部町丁目は上図とは異なる地域として算出

図 平成 11 年度及び平成 30 年度調査の結果比較のための地域区分

(1) 地域内外の人の動き

小山駅周辺地区における発生量・集中量が最も多く、平成 11 年度調査に比べて、特に小山駅周辺地区-市外間の移動が増加している。



(2) 地域別・代表交通手段別の発生集中量

小山駅周辺地区の発生量・集中量が最も多く、かつ平成11年度から増加傾向にある。また、大谷北・小山工業団地地区についても増加傾向にある一方で、桑・絹地区や小山西地区では発生量・集中量が減少傾向にある。ただし、どの地区においても自動車の発生集中量は増加傾向にある。

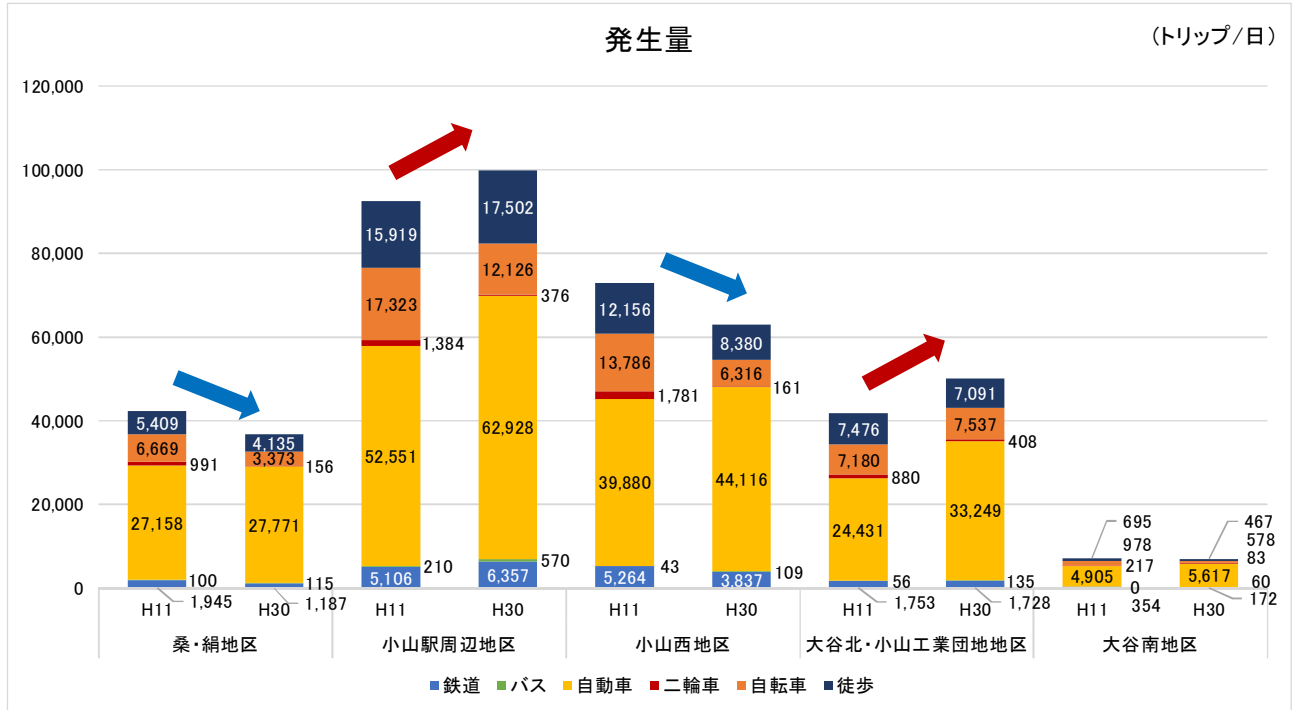


図 地域別・代表交通手段別の発生量

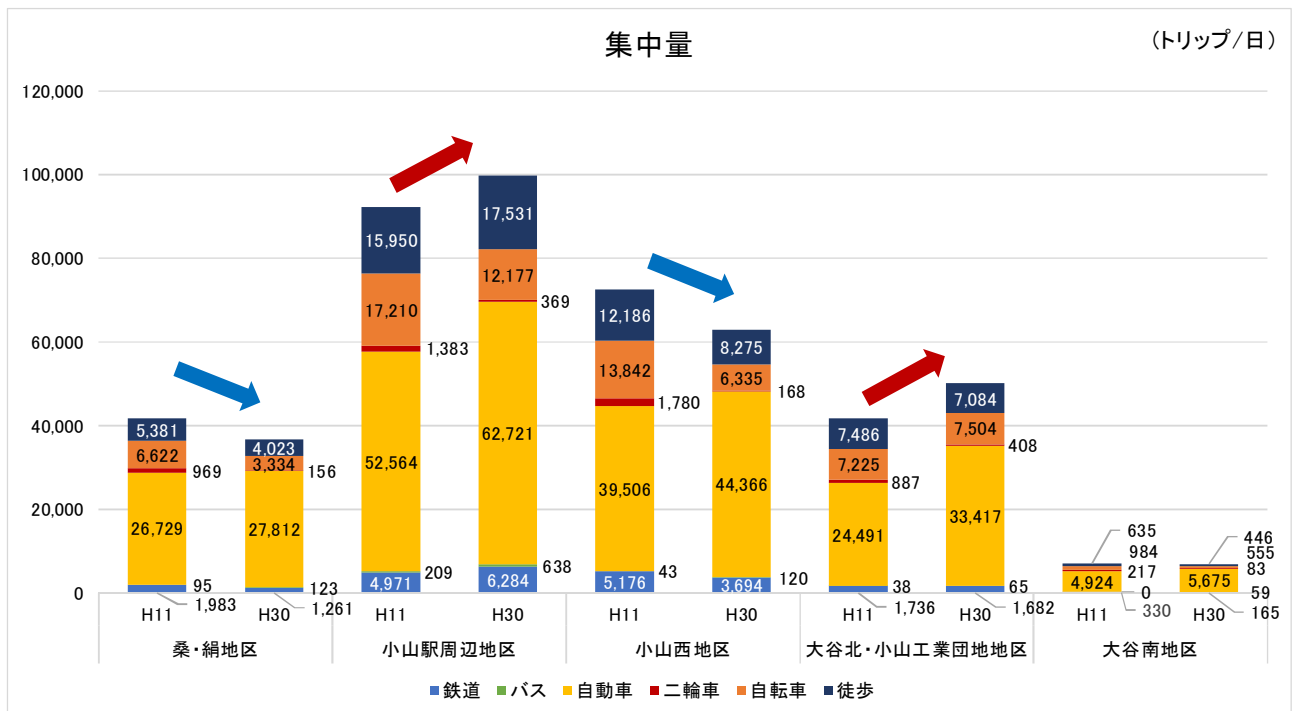


図 地域別・代表交通手段別の集中量

(3) 地域間の人の動き

1) 全目的

駅東地区～大谷北地区間での移動が最も多く(8,240 トリップ/日)、次いで小山駅西地区～駅南地区間での移動が多い(7,168 トリップ/日)。その他、小山駅西、駅東、駅南地区の駅周辺地域や大規模商業施設が立地する大谷北地区を発着とする移動が多くみられる。

平成 11 年と平成 30 年の地域間の人の動きはおおよそ同じ傾向にあり、駅周辺～北方向や東西方向の移動が多く見られる。

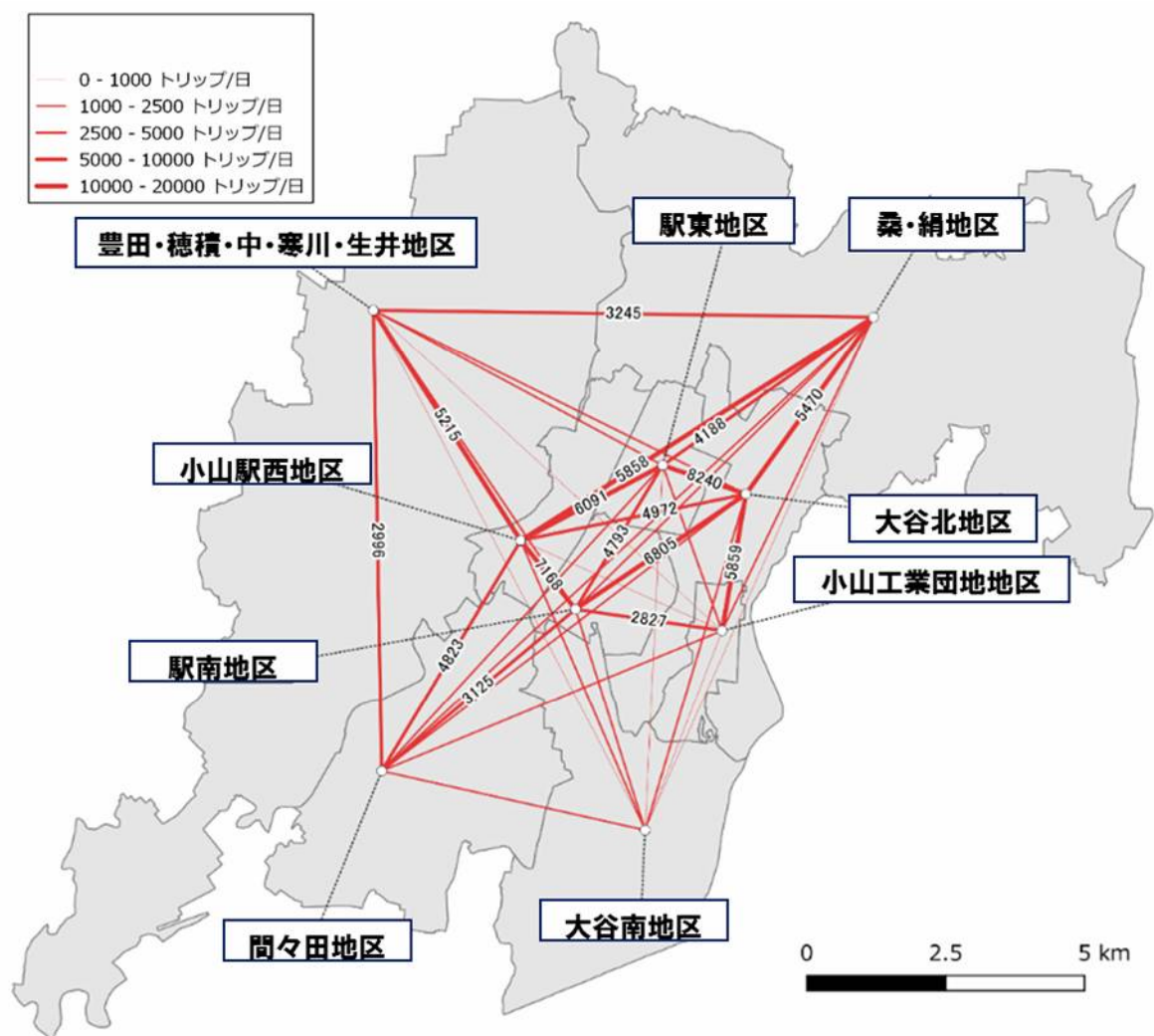


図 地域間の人の動き①(平成 30 年度、全目的)

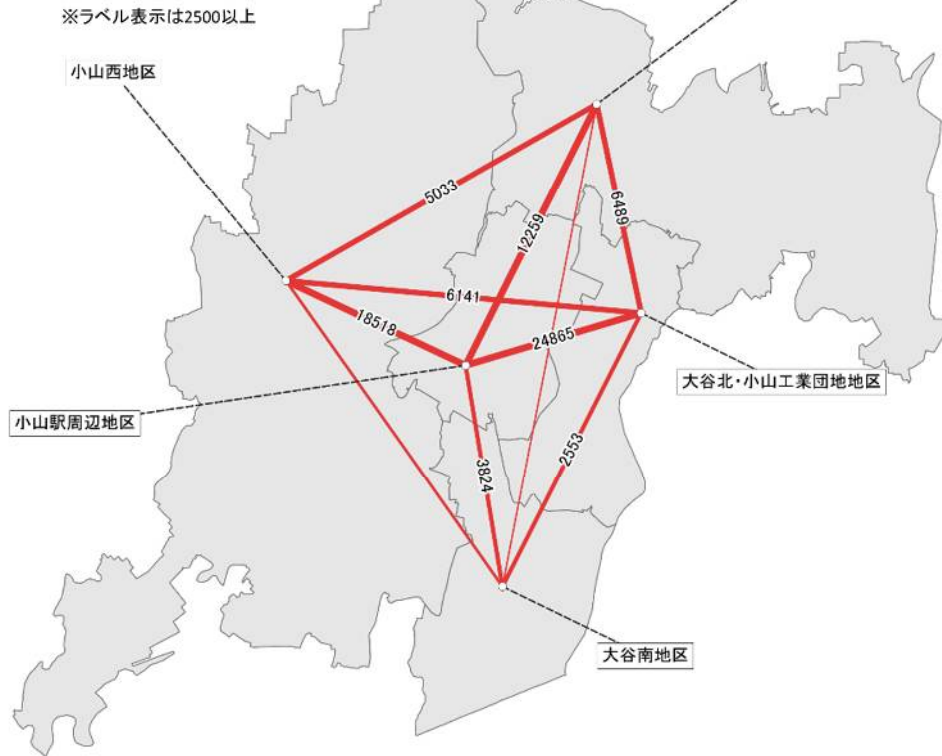
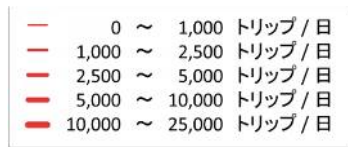


図 地域間の人の動き② (平成 30 年度、全目的)

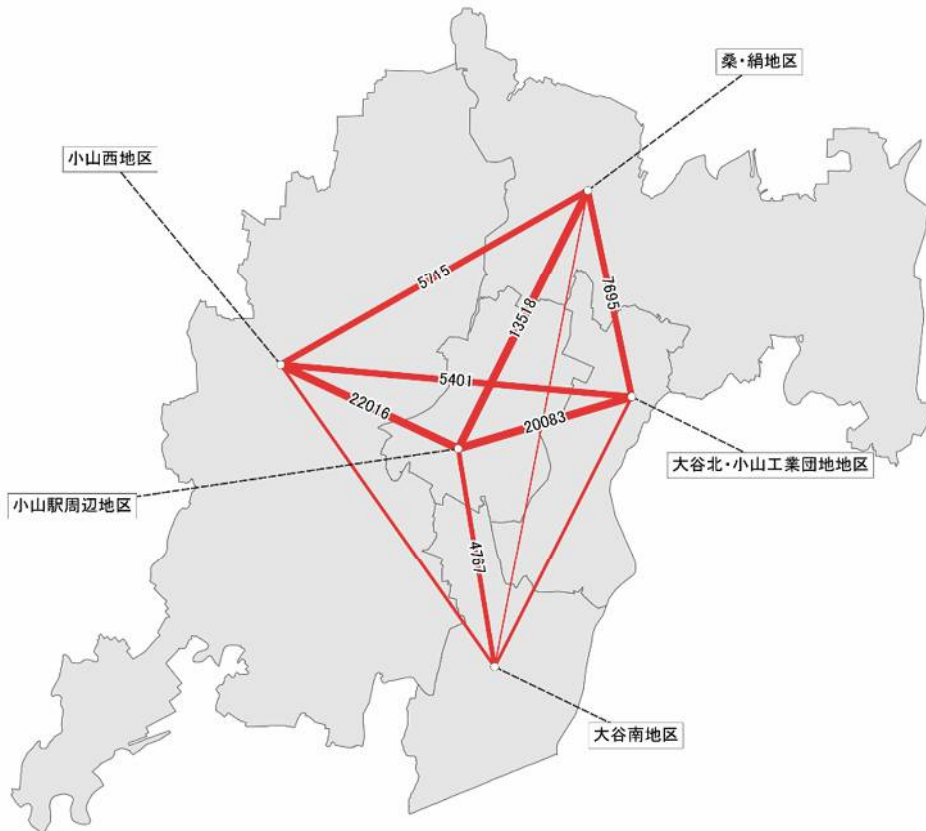


図 地域間の人の動き③ (平成 11 年度、全目的)

※平成 11 年と平成 30 年調査結果を比較するため、地域区分を東ねて図示

2) 通勤目的

大谷北地区や大谷周辺地区周辺地域を発着とした移動が最も多くみられる。

平成 11 年と平成 30 年の地域間の人の動きはおおよそ同じ傾向にあり、駅周辺～北方向や東西方向の移動が多く見られる。

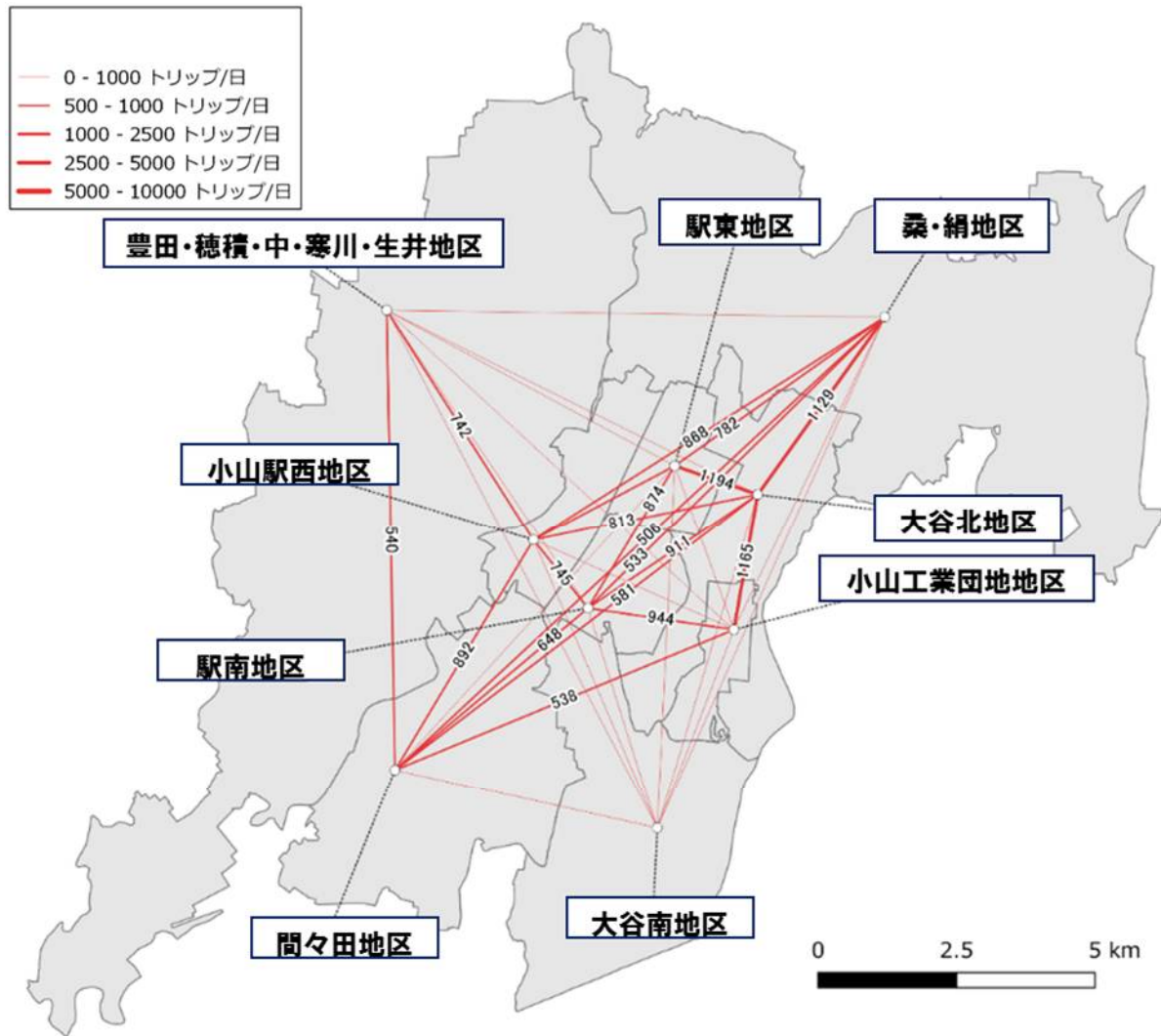
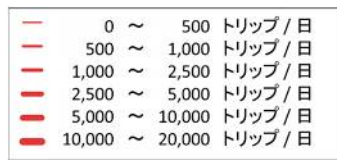


図 地域間の人の動き① (平成 30 年度、通勤目的)



※ラベル表示は500以上

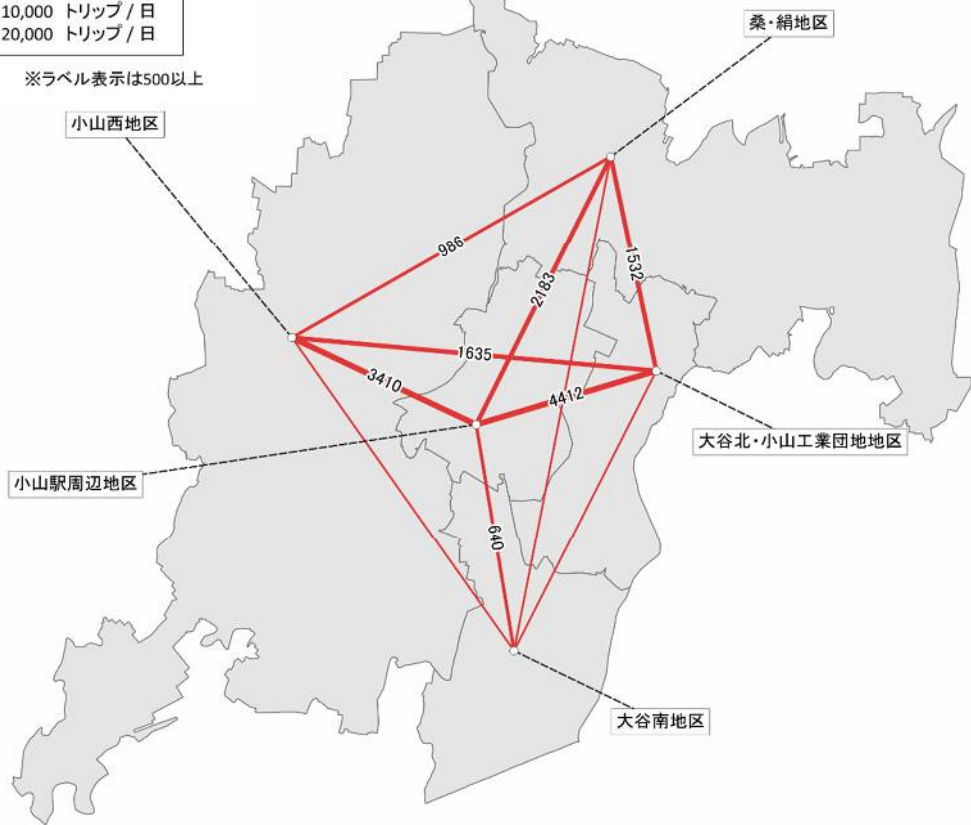


図 地域間の人の動き②(平成30年度、通勤目的)

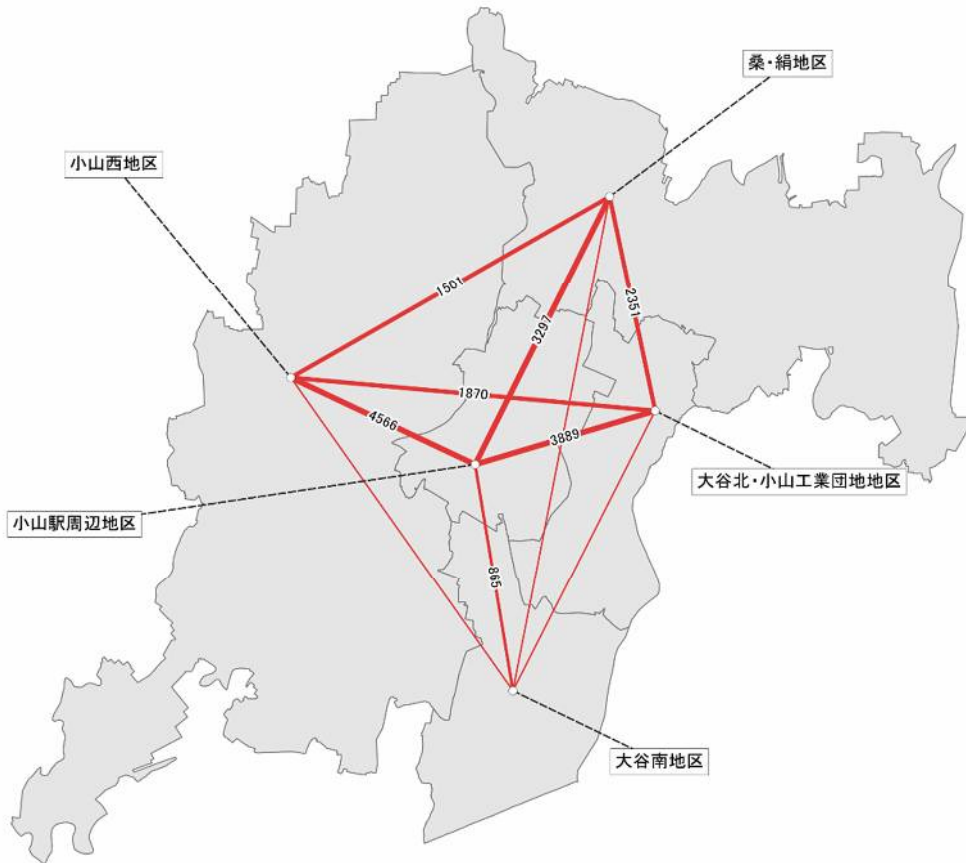


図 地域間の人の動き③(平成11年度、通勤目的)

※平成11年と平成30年調査結果を比較するため、地域区分を束ねて図示

3) 通学目的

小山高専のある大谷北地区～駅東地区、小山工業団地地区間での移動がやや多く見られる。

平成 11 年と平成 30 年の地域間の人の動きはおおよそ同じ傾向にあり、東西方向の移動が多く見られる。

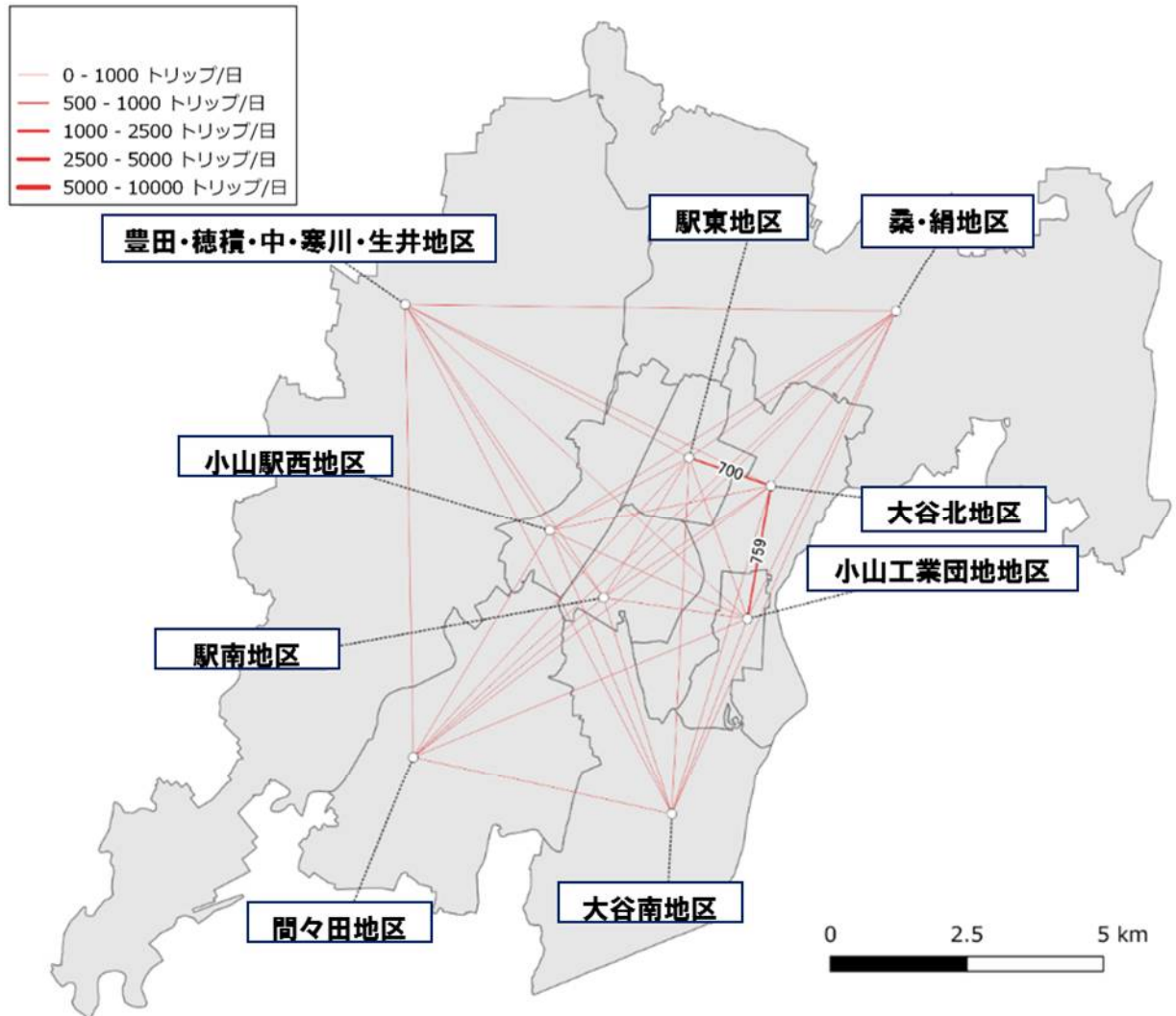
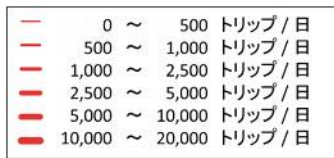


図 地域間の人の動き①(平成 30 年度、通学目的)



※ラベル表示は500以上

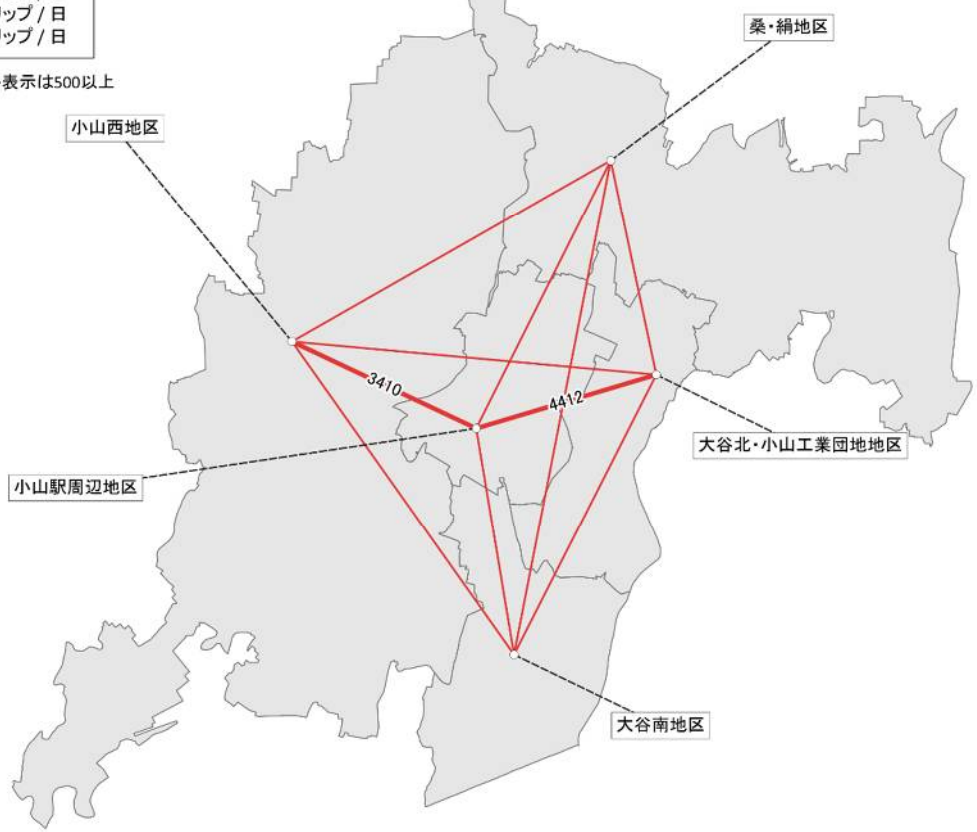


図 地域間の人の動き② (平成 30 年度、通学目的)

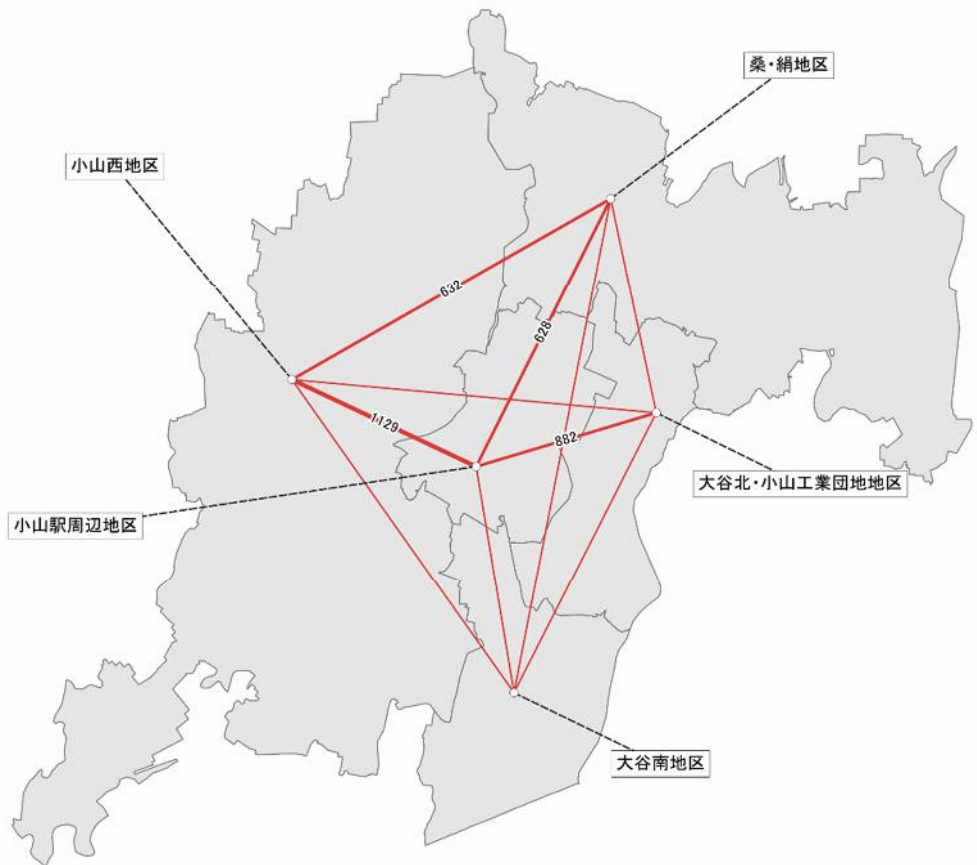
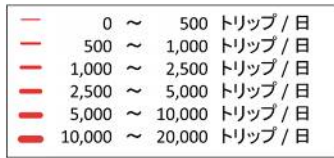


図 地域間の人の動き③ (平成 11 年度、通学目的)

※平成 11 年と平成 30 年調査結果を比較するため、地域区分を束ねて図示



※ラベル表示は500以上

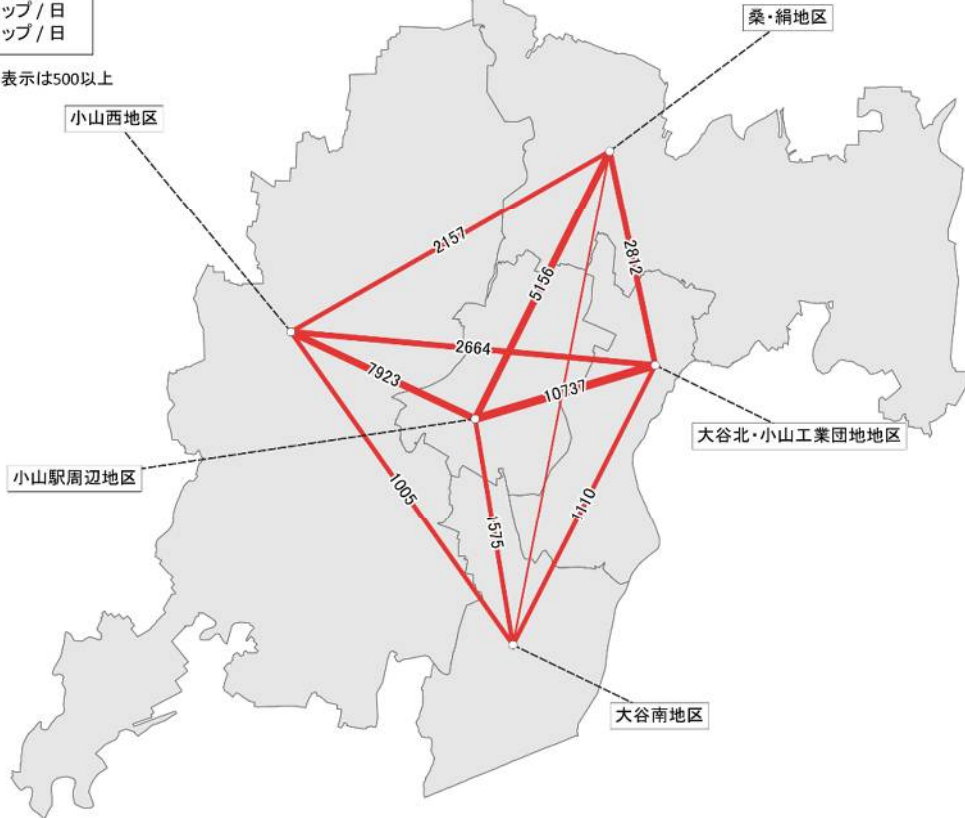


図 地域間の人の動き② (平成 30 年度、帰宅目的)

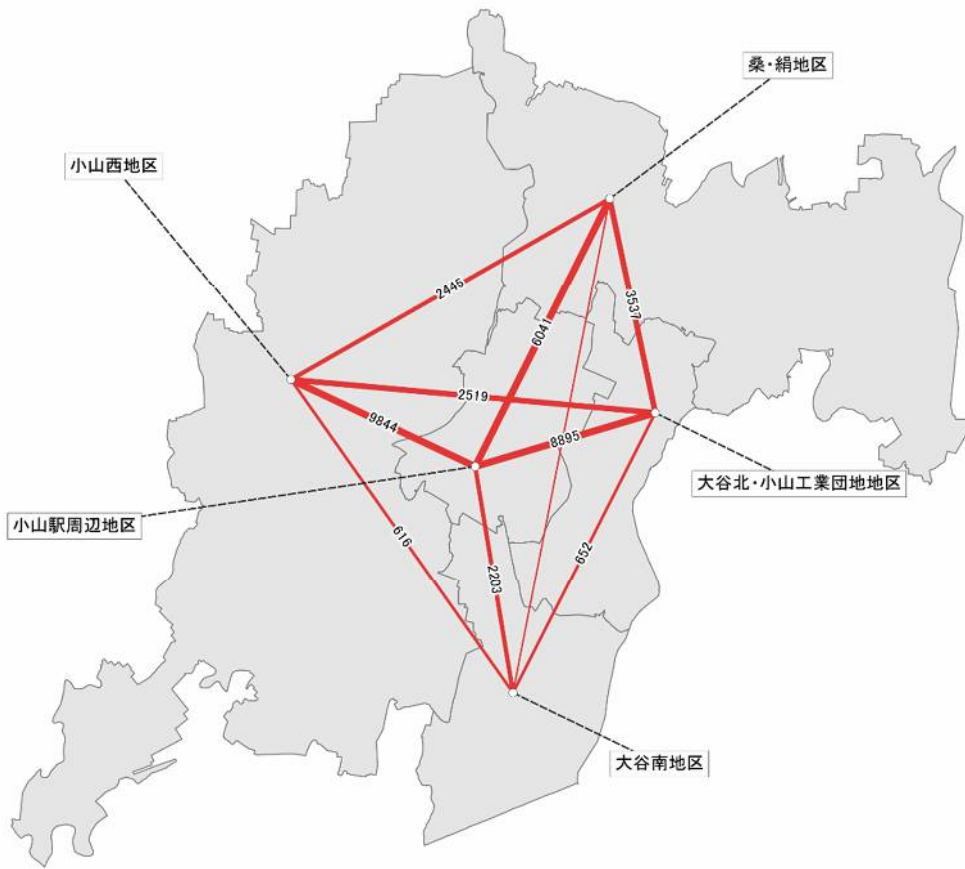


図 地域間の人の動き③ (平成 11 年度、帰宅目的)

※平成 11 年と平成 30 年調査結果を比較するため、地域区分を束ねて図示

5) 業務目的

各地区間でおおよそ同程度の移動がみられる。

また、平成 11 年と比較して、平成 30 年の業務移動は減少傾向にある(特に桑・絹地区、大谷北・小山工業団地地区～小山駅周辺地区)。

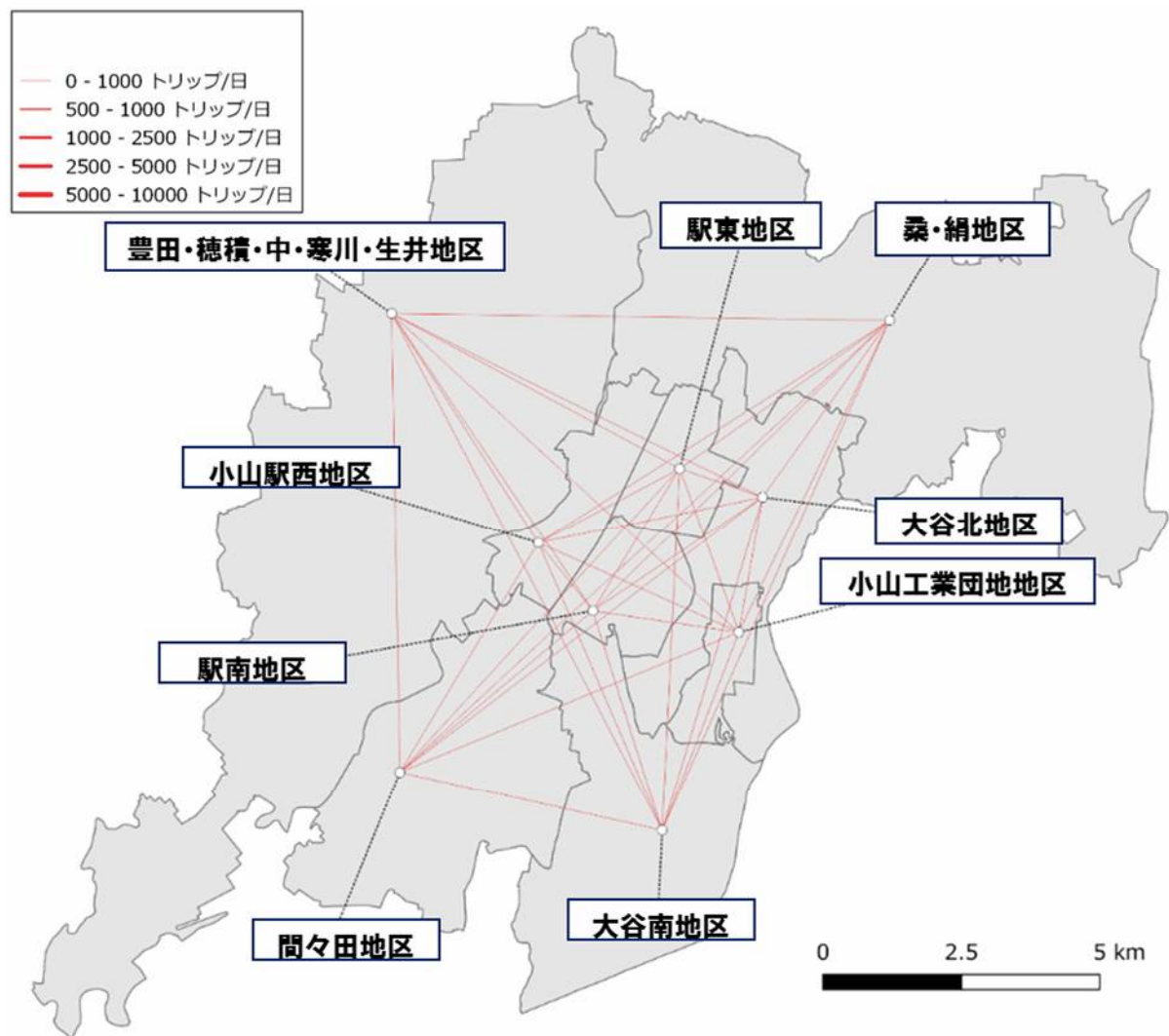
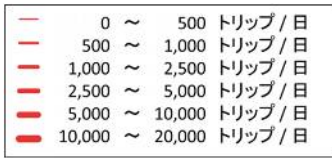


図 地域間の人の動き①(平成 30 年度、業務目的)



※ラベル表示は500以上

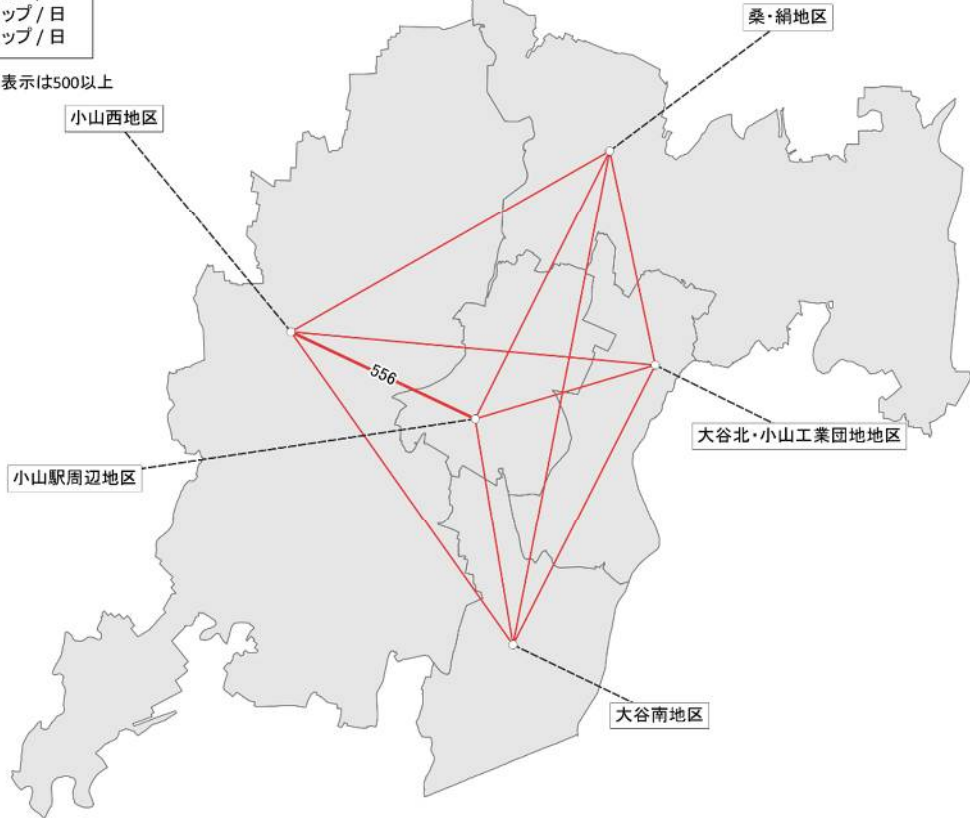


図 地域間の人の動き② (平成 30 年度、業務目的)

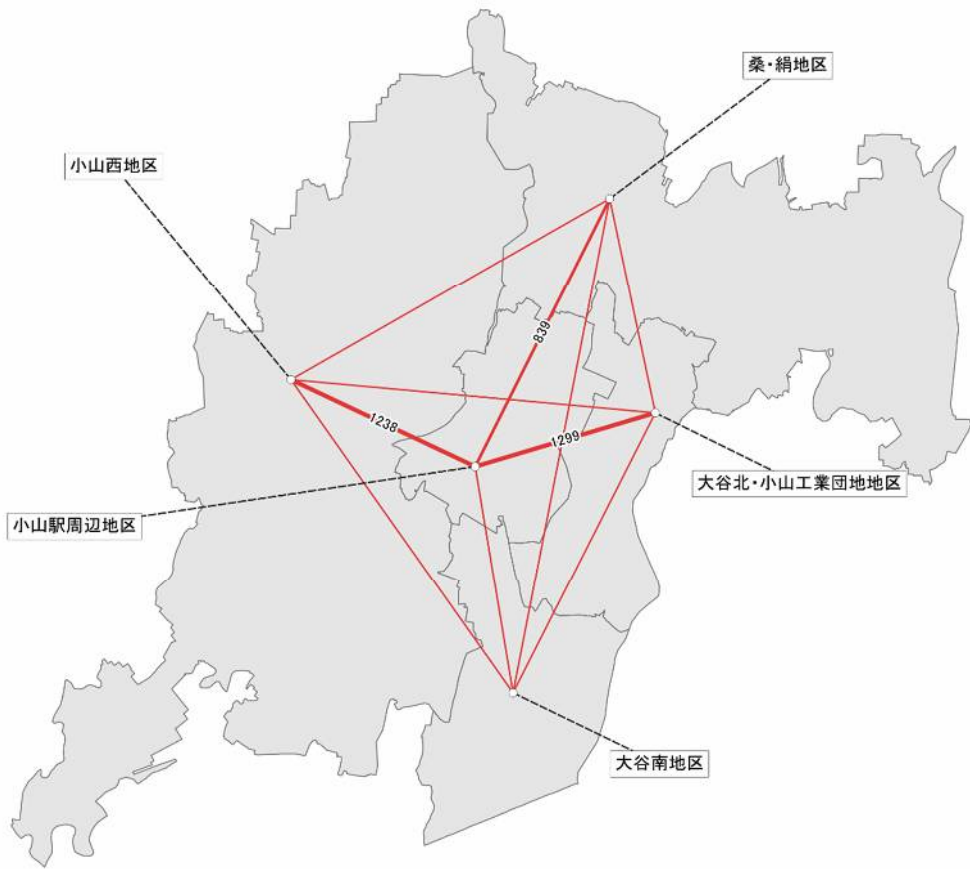


図 地域間の人の動き③ (平成 11 年度、業務目的)

※平成 11 年と平成 30 年調査結果を比較するため、地域区分を束ねて図示

6) 私用目的

小山駅西地区、駅南地区、駅東地区の駅周辺間や、駅周辺地区と大谷北地区間での移動が多くみられる。

平成 11 年と平成 30 年の地域間の人の動きはおおよそ同じ傾向にあり、駅周辺～北方向や東西方向の移動が多く見られる。

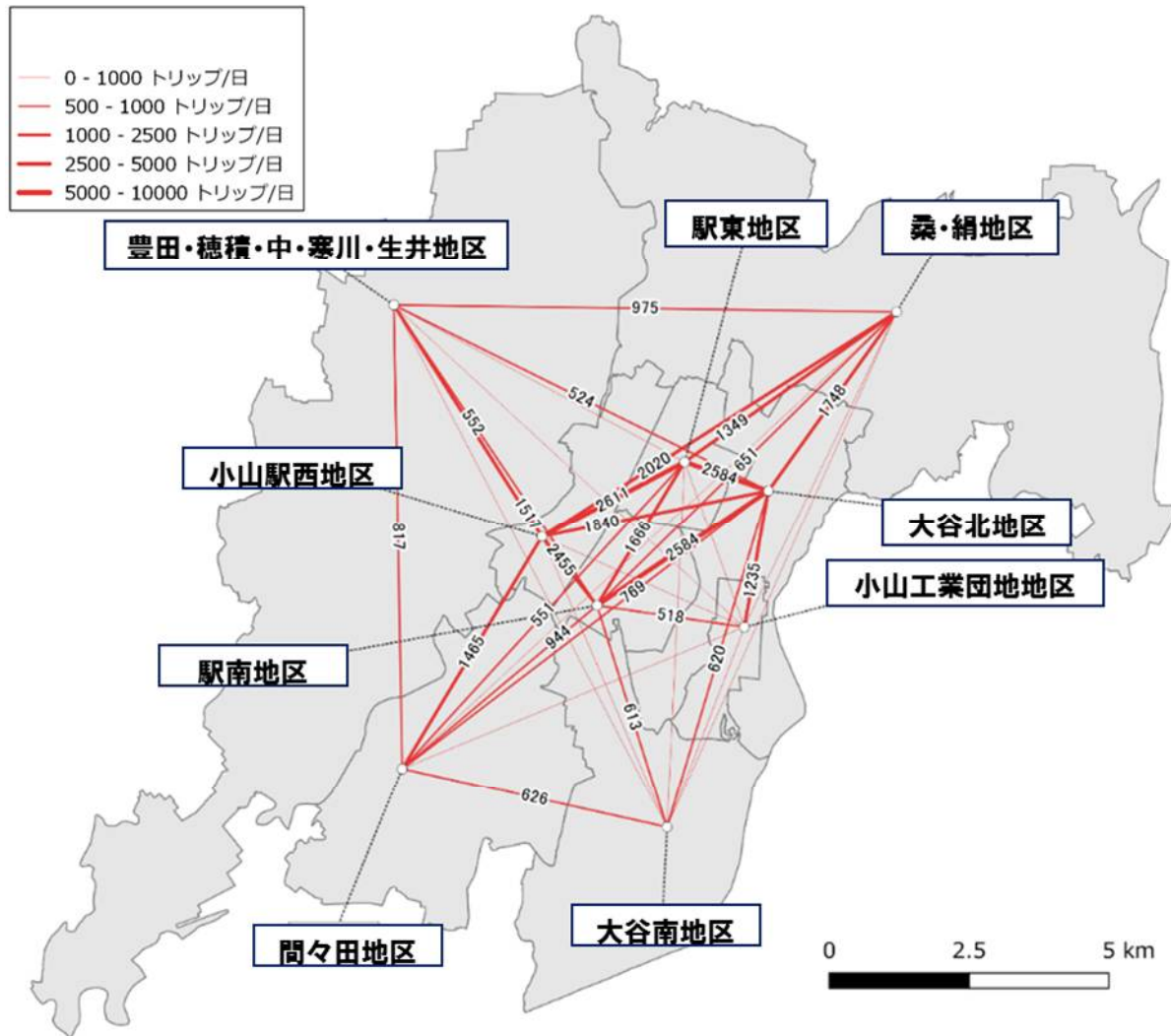
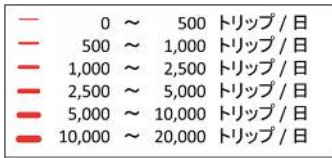


図 地域間の人の動き①(平成 30 年度、私用目的)



※ラベル表示は500以上

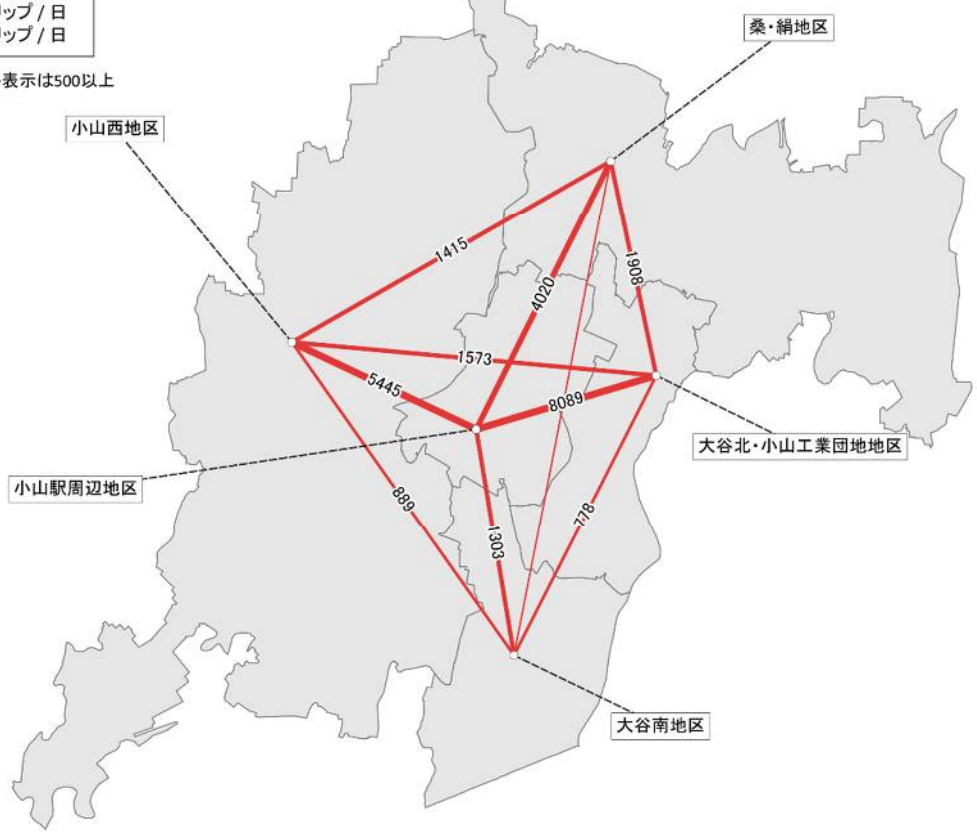


図 地域間の人の動き② (平成 30 年度、私用目的)

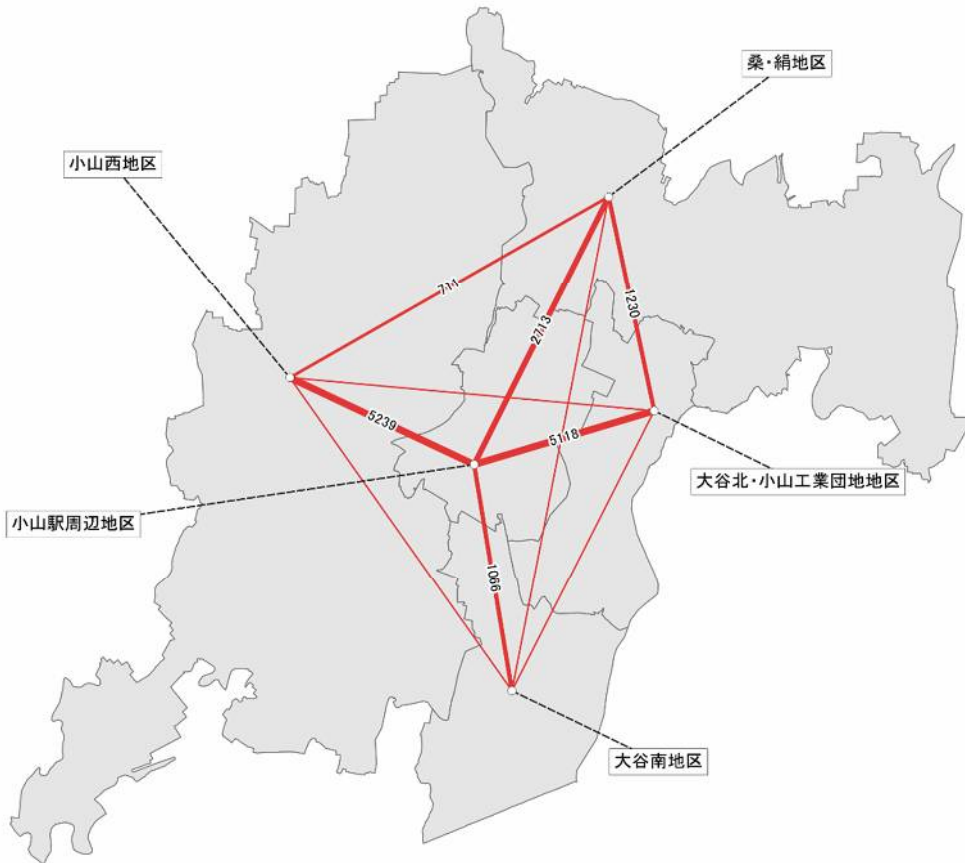


図 地域間の人の動き③ (平成 11 年度、私用目的)

※平成 11 年と平成 30 年調査結果を比較するため、地域区分を束ねて図示